

令和6年度

事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

学校法人 松本学園

目 次

1. 法人の概要	2
(1) 建学の精神、教育理念・目的、教育目標	
(2) 法人の沿革	
(3) 設置する学校・学部・学科等	
(4) 設置する学校・学部・学科等の収容定員	
(5) 設置する学校・学部・学科等の入学者（入園児）数等	
(6) 設置する学校・学部・学科等の在学者（在園児）数	
(7) 設置する学校・学部・学科の卒業（修了）者（卒園児）数	
(8) 役員の概要	
(9) 評議員の概要	
(10) 教職員の概要	
(11) 施設等の状況	
(12) その他	
2. 事業の概要	8
(1) 学校法人松本学園 事業の概要	
(2) 松本看護大学 事業の概要	
(3) 松本短期大学 事業の概要	
(4) 松本短大幼稚園 事業の概要	
3. 財務の概要	35
(1) 収支の状況	
(2) 主な財務比率について	
(3) 主な施設・設備の整備状況	
別紙 1 学校法人松本学園 役員・評議員名簿	
別紙 2 松本看護大学・松本短期大学 令和 6 年度 専任教職員 名簿	
別紙 3 松本看護大学・松本短期大学 令和 6 年度 非常勤教員 名簿	
別紙 4 松本看護大学・松本短期大学 令和 6 年度 進路状況	
別紙 5 松本看護大学・松本短期大学 令和 6 年度入学試験 入試状況一覧表	
別紙 6 松本看護大学・松本短期大学 令和 6 年度 年間行事予定表	
別紙 7 松本短大幼稚園 令和 6 年度 専任教職員 名簿	
別紙 8 松本短大幼稚園 令和 6 年度 年間計画表	
別紙 9 過去 5 年間の収支の推移	
別紙 10 財務比率比較表	
別紙 11 令和 6 年度決算状況	

令和 6 年度 学校法人松本学園 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 建学の精神、教育理念・目的、教育目標

建学の精神及び松本看護大学・松本短期大学の教育理念、松本短大幼稚園の教育目標は以下のとおりです。

－建学の精神－

人々の健康と福祉及び教育における学術の教育研究の府として、信濃の国の教育風土に培われた教育への良心と見識をもって、ひとと交わり、ひとを育て、ひとに誠意を尽くす人間性の涵養と、自立した専門職業人（ケアスペシャリスト）の育成を行い、ひいては地域の人々に貢献する。

－松本看護大学 教育理念、目的－

松本看護大学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、医療保健福祉において、深く専門の学芸を研究教授し、豊かな教養と専門学術および職業に必要な能力を修得させ、学生が自らの人格を培うことを援助する。更に、地域社会における医療保健福祉の向上に貢献する人材を育成するとともに看護学の発展に寄与することを教育の理念・目的とする。

－松本短期大学 教育理念－

松本短期大学は建学の精神を受けて、幼児保育学科、介護福祉学科を設置し、地域の人々の保健医療福祉と教育に関する現実の多様なニーズに応えることのできる保育士及び幼稚園教諭、介護福祉士のケアスペシャリストの養成教育を行う。

・保育士及び幼稚園教諭・介護福祉士として、「命・可能性・権利を保証し、その人らしい生活を支えるケアスペシャリスト」の育成

・地域の保健医療福祉及び教育に貢献できる人材の育成

－松本短大幼稚園 教育目標－

やさしく・つよく・すこやかに

(2) 法人の沿革

昭和 45 年 12 月	学校法人松本学園 設立認可（長野県知事）
	松本保育専門学校 設置認可
昭和 46 年 4 月	松本保育専門学校 開校
	初代理事長に上条憲太郎（元長野県教育長）就任
	初代学長に横内秀雄（元長野県教育長）就任
昭和 47 年 1 月	学校法人松本学園 組織変更認可（文部大臣）
	松本短期大学 幼児教育学科 設置認可
昭和 47 年 4 月	松本短期大学 開学（文部大臣）
	松本短期大学 幼児教育学科 開設 [入学定員 50 名]
昭和 49 年 8 月	松本短大幼稚園 設置認可 開園

	初代園長に片山光義（前学園常任理事）就任
昭和 52 年 4 月	第 2 代理事長に片山光義（松本短大幼稚園園長）就任
	松本短期大学 第 2 代学長に上条御男（前信州大学教授）就任
昭和 63 年 4 月	松本短期大学 第 3 代学長に丸山求（前学園副学長）就任
平成 3 年 11 月	松本短期大学 第 4 代学長に小山光男（前本学教授）就任
平成 4 年 12 月	松本短期大学 介護福祉学科 設置認可（文部大臣）
平成 5 年 3 月	介護福祉士養成施設 指定認可（厚生大臣）
平成 5 年 4 月	松本短期大学 介護福祉学科 開設 [入学定員 80 名]
平成 7 年 4 月	松本短期大学 専攻科福祉専攻 開設 [入学定員 20 名]
平成 7 年 8 月	第 2 代園長に片山司（学園理事長職務代理）就任
平成 8 年 4 月	松本短期大学 介護福祉学科 [入学定員 100 名に変更]
平成 9 年 3 月	第 3 代理事長に片山司（松本短大幼稚園園長）就任
平成 10 年 4 月	松本短期大学 第 5 代学長に山崎健治（介護福祉学科学科長・教授）就任
平成 16 年 4 月	松本短期大学 幼児教育学科を幼児保育学科へ学科名称変更
	松本短期大学 幼児保育学科 [入学定員 80 名に変更]
平成 17 年 12 月	松本短期大学 看護学科 設置認可（文部科学大臣）
	看護師学校 指定認可（文部科学省高等教育局長）
平成 18 年 4 月	松本短期大学 看護学科 開設 [入学定員 60 名]
	松本短期大学 第 6 代学長に村山忍三（介護福祉学科学科長・教授）就任
平成 20 年 4 月	松本短期大学 幼児保育学科 [入学定員 100 名に変更]
	松本短期大学 介護福祉学科 [入学定員 80 名に変更]
	松本短期大学 第 7 代学長に山崎健治（本学前学長・教授）就任
平成 23 年 4 月	第 4 代理事長に錢坂久紀（前学園理事長代行）就任
	第 3 代園長に錢坂久紀（前学園理事長代行）就任
平成 24 年 4 月	松本短期大学 第 8 代学長に塚田昌滋（元市立岡谷病院院長）就任
平成 26 年 4 月	松本短期大学 介護福祉学科 [入学定員 65 名に変更]
	松本短期大学 看護学科 [入学定員 70 名に変更]
平成 28 年 4 月	松本短期大学 第 9 代学長に木内義勝（元松本大学松商短期大学部学部長）就任
平成 30 年 4 月	松本短期大学 介護福祉学科 [入学定員 50 名に変更]
平成 31 年 4 月	松本短期大学 介護福祉学科 [入学定員 40 名に変更]
〃	松本短大幼稚園 施設型給付幼稚園へ移行
令和 2 年 4 月	松本短大幼稚園 認定こども園へ移行 [利用定員：1号 75名,2号 45名,3号 33名]
令和 2 年 10 月	松本看護大学 設置認可（文部科学大臣） [入学定員 70 名]
令和 2 年 12 月	保健師学校、看護師学校 指定認可（文部科学省高等教育局長）
令和 3 年 3 月	松本短期大学 専攻科福祉専攻 廃止
令和 3 年 4 月	松本看護大学 開学
〃	松本看護大学 看護学部 看護学科 開設（入学定員 70 名）
〃	松本看護大学 初代学長に上條節子（元松本短期大学教授）就任
令和 5 年 3 月	松本短期大学 看護学科 廃止
令和 7 年 4 月	松本看護大学 第 2 代学長に原寛美（日本ステイミュレーション学会副理事長）就任

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	設置する学部・学科等
松本看護大学	令和3年4月	看護学部 看護学科 [令和3年度開設]
松本短期大学	昭和47年4月	幼児保育学科 [昭和47年度開設] 介護福祉学科 [平成5年度開設]
松本短大幼稚園	昭和49年8月	令和2年4月 認定こども園へ移行

(4) 設置する学校・学部・学科等の収容定員(令和6年5月1日現在)

(人)

学校名	学部等	入学定員	収容定員	備考
松本看護大学	看護学部	70	280	令和3年4月開設
	合計	70	280	
学校名	学科等	入学定員	収容定員	備考
松本短期大学	幼児保育学科	100	200	
	介護福祉学科	40	80	
	合計	140	260	
学校名		利用定員	収容定員	備考
松本短大幼稚園		165	200	

(5) 設置する学校・学部・学科等の入学者(入園児)数等(令和6年4月入学者)

(人)

学校名	学部	入学者数	備考
松本看護大学	看護学部	65	
	合計	65	
学校名	学科等	入学者数	備考
松本短期大学	幼児保育学科	53	
	介護福祉学科	13	
	合計	66	
学校名		入園者数	備考
松本短大幼稚園		32	0歳児：0、1歳児：14、2歳児：11、3歳児：6、 4歳児：1、5歳児：0

(6) 設置する学校・学部・学科等の在学者(在園児)数(令和6年5月1日時点)

(人)

学校名	学部学科等	在学者数						
		R6	R5	R4	R3			合計
		入学生	入学生	入学生	入学生			
松本看護大学	看護学部	65	67	75	77			284
	合計	65	67	75	77			284
学校名	学科等	在学者数						
松本短期大学	幼児保育学科	R6	R5	R4	R3			合計
		入学生	入学生	入学生	入学生			
		53	69	-	-			122

	介護福祉学科	13	21	-	-				34
	合計	66	90	-	-				156
学校名	在園児数								
	0歳児	1歳児	2歳児	満3歳	3歳児	4歳児	5歳児	合計	
松本短大幼稚園	0	15	24	2	24	41	41	147	

(7) 設置する学校・学部・学科の卒業生(卒園児)数、学位授与数(令和7年3月卒業生) (人)

学校名	学科等	卒業(修了)者数	学位授与数	備考
松本看護大学	看護学部	72	72	
	合計	72	72	
学校名	学科等	卒業(修了)者数	学位授与数	備考
松本短期大学	幼児保育学科	69	69	
	介護福祉学科	21	21	
	合計	90	90	
学校名		卒園児数	備考	
松本短大幼稚園		38		

(8) 役員の概要

1) 役員

別紙1 参照

2) 役員の状況

就任された役員

区分	氏名	常勤・非常勤の別	選任条項	備考
監事	草深 克臣	非常勤	7-1	令和 6 年 5 月 23 日 監事就任

3) 退任された役員

区分	氏名	常勤・非常勤の別	選任条項	備考
監事	伊藤 隆	非常勤	7-1	令和 6 年 5 月 23 日 監事退任

4) 理事会の開催状況

年月日	主な議題	備考
令和 6 年 05 月 23 日	令和 5 年度決算(案)・事業報告(案)について 寄附行為の改正について 他	
令和 6 年 08 月 08 日	諸規程の改正について 他	
令和 06 年 10 月 28 日	松本看護大学学長の選任について 他	
令和 6 年 12 月 20 日	松本短期大学 幼児保育学科定員減について 松本短期大学 介護福祉学科定員減について 他	
令和 07 年 2 月 17 日	令和 6 年度補正予算(案)について 令和 7 年度予算(案)及び事業計画(案)について 他	

(9) 評議員の概要

1) 評議員

別紙 1 参照

2) 評議員の状況

特記事項なし

3) 退任された評議員

なし

4) 評議員会の開催状況

年月日	主な議題	備考
令和 6 年 5 月 23 日	令和 5 年度決算 (案)・事業報告 (案) について 寄附行為の改正について 他	
令和 06 年 12 月 20 日	松本短期大学 幼児保育学科定員減について 松本短期大学 介護福祉学科定員減について 他	
令和 07 年 02 月 17 日	令和 6 年度補正予算 (案) について 令和 7 年度予算 (案) 及び事業計画 (案) について 他	

(10) 教職員の概要

1) 教員数

別紙 2、3、7 参照

2) 専任教員の状況

松本看護大学では、在学者数 (3 学年から 4 学年) 増加に伴い、令和 6 年 4 月 1 日付けにて、安田裕子教授、桑原良子准教授の 2 名を新規採用しました。なお、令和 6 年度末までの退職者は 8 名 (学長任期満了 1 名、契約期間満了 4 名、自己都合 3 名) です。

松本短期大学では、教員の退職などに伴い令和 6 年 4 月 1 日付けにて、古屋顯一教授 (幼児保育学科) を新規採用しました。なお、令和 6 年度末までの退職者は 2 名 (契約期間満了 1 名、定年退職 1 名) です。

松本短大幼稚園は、新規採用者はありませんでした。なお、令和 6 年度末までの退職者は 3 名 (自己都合 3 名) です。

3) 職員数

別紙 2、7 参照

4) 専任職員の状況

松本看護大学・松本短期大学では、新規職員の採用はありませんでした。令和 6 年度までの退職者はありません。

(11) 施設等の状況

1) 現有施設設備の所在地

主な施設等の状況は下表のとおりです。

所在地	施設等	面積等	帳簿価格	摘要
長野県松本市笹賀 (松本看護大学・松本短期大学)	校地他	17,738.57 m ²	70,200 千円	駐車場用地含む
	校舎	11,465.94 m ²	1,168,026 千円	延べ面積
長野県松本市寿台	校地	5,381.00 m ²	70,099 千円	

(松本短大幼稚園)	園舎	1,150.53 m ²	237,070 千円	延べ面積
長野県松本市笹賀 (職員宿舎他)	敷地他	3,799.72 m ²	269,525 千円	
	宿舎他	129.17 m ²	317 千円	

2) 当該年度の主な施設設備の取得または処分

- ①松本看護大学・松本短期大学 1・2号館給水ポンプ更新 1,705 千円
- ②松本看護大学・松本短期大学 AED 増設 330 千円
- ③松本看護大学・松本短期大学 食堂厨房業務用冷蔵庫 600 千円
- ④松本短大幼稚園 砂場手洗い新設 528 千円

(12) その他

1) 当該年度の重要な契約

なし

2) 係争事件の有無

なし

3) 決算日後に生じた学校法人の状況に関する重要な事項

なし

2. 事業の概要

(1) 学校法人松本学園 事業の概要

学校法人松本学園は、法人設立以来、安定的な経営基盤を確立し、建学の精神および教育理念、教育目標に則った教育の具現化に取り組んでいます。

昨今の人口減少や競合校の増加など、学園を取り巻く厳しい環境の中でも教育・研究活動を永続的に発展させ、地域社会への貢献を果たしていきたいと考えています。

<主な事業の計画>

- 1) 私立学校法改正に伴う寄附行為変更手続き
- 2) 認証評価に向けた取り組み
- 3) 松本短期大学の経営安定化に向けての検討
- 4) 第2期中期経営計画の推進
- 5) 円滑な通学体制についての検討
- 6) 松本短大幼稚園 50周年に向けての検討・実施
- 7) 施設設備に関する計画

<計画の進捗状況>

- 1) 私立学校法改正に伴う寄附行為変更手続き

令和5年度に成立した改正私立学校法に対応した寄附行為の改正について、令和6年度までに理事会等で審議した結果、令和6年5月23日理事会にて改正案が承認され、7月1日付けで文部科学省に変更認可申請を行い、認可されました。変更後の寄附行為は令和7年4月1日より施行されます。

- 2) 認証評価に向けた取り組み

松本短期大学の認証評価が令和6年度に大学・短期大学基準協会により受審されました。受審するにあたり、理事会及び評議員会において評価制度の概要、評価基準、法人・短大における対応について報告がなされ、情報の共有を学園全体で図ってまいりました。6月に令和5年度自己点検・評価報告書及び提出・備付資料を作成・提出し、9月12日・13日に評価員により実地調査が行われました。実地調査においては、法人として理事長及び事務局長、監事が面接調査に出席し、学園および短大の状況等についての質問に対応いたしました。令和7年3月14日付けで認証評価の結果が公表され、同協会の定める短期大学評価基準を満たしており適格と判断されました。

- 3) 松本短期大学の経営安定化に向けての検討

松本短期大学入学者減少に伴う対する取り組みとして、令和7年度入学者より幼児保育学科の定員減を実施いたしました。また、適切な定員充足率確保に対する更なる取り組みとして、令和8年度から幼児保育学科及び介護福祉学科の定員減について理事会・評議員会において検討した結果、令和6年10月28日理事会にて承認されました。

- 4) 第2期中期経営計画の推進

令和5年度に、第2期中期経営計画について、入学定員充足率の目標値及び2025（令和7）年度の学生生徒納付金収入目標値について、財務計画についての確定額及び現状に則した計画内容に見直しを行いました。令和6年度は計画と実態に沿った令和7年度の事業計画及び予算書を作成するために、大学・短大（各学科）・幼稚園と連携を図ってまいりました。令和7年度は計画の最終年度となるため、第2期の実施状況を踏まえ、法人全体としてさらなる発展・持続を可能とするための第3期中期経営計画を作成いたします。

- 5) 円滑な通学体制についての検討

スクールバスの円滑な運行のため、利用状況の把握と村井駅改修に伴う発着場所の変更を実施いたしました。学内実習・補講等による通常運行期間外についても、可能な限り運行を行い、学生の通学に対応いたしました。スクールバス老朽化の対応としまして、走行時の不具合に対して、迅速な点検・修理を実施したうえで、今後のバスの運行について継続的に検討を行っております。

6) 松本短大幼稚園 50 周年に向けての検討・実施

松本短大幼稚園の開園 50 周年記念事業として以下の事業を実施いたしました。

① 50 周年記念誌作成事業

令和 7 年 3 月に 500 部を作成し、在園児、教職員、関係機関等に配布いたしました。

② 50 周年記念広告事業

令和 7 年 3 月 15 日の市民タイムス紙面上に見開き記念広告を掲載いたしました。

③ 砂場手洗い設置事業

認定こども園園舎建設時に撤去した砂場手洗いについて、8 月に設置いたしました。

7) 施設・設備の整備

令和 6 年度に予定しておりました施設・設備についての計画は以下のとおりです。

松本看護大学・松本短期大学

① 学生の学習環境整備についての実施

図書館において PC 等情報機器を利用した学習機会が増えていることから、閲覧席に電源を確保し、学習環境の改善を図りました。無線 LAN の通信状況について、学生アンケート結果や聞き取りにより情報収集を実施し、学生通信端末利用に伴う学習環境の改善について検討を継続しております。

② 教室内机・椅子等の点検

教室内の机、椅子等の点検を実施し、劣化しているものについて撤去を行いました。

③ 1・2 号館給水ポンプ更新

老朽化により 2 基のうち 1 基が動作稼働できなくなっていた給水ポンプについて更新を行いました。

④ 学内照明機器 LED 化に向けての情報収集

教育環境改善および、一部メーカーによる蛍光灯の製造中止の報道を受け、照明器具の LED 化について検討を進めております。令和 6 年度は施設内の照明器具使用状況を調査し、交換頻度の高い部屋のピックアップを実施しました。今後は、LED 化による経費の見積もり、費用対効果、活用できる補助金について検討を進めていきます。

松本短大幼稚園

① 物置設置工事（遊具格納施設）及び園舎・遊戯室屋根塗装工事

施設面、財政面等の状況を勘案した結果、令和 6 年度の実施は見送ることといたしました。今後の実施については法人と協議したうえで計画していきます。

② 教育支援体制整備事業に関する計画

長野県の補助金（教育支援整備事業費補助金（遊具等））を活用し、教室内ストーブを更新しました。

③ その他

- ・ 砂場手洗い場の設置
- ・ 園門付近のアスファルト化工事

<今後の課題>

- ・ 安定した経営基盤の確立（入学者数及び定員充足率確保のための対応）
- ・ 学習環境維持・向上のための施設設備の点検・更新

(2) 松本看護大学 事業の概要

建学の精神

前述のとおりです。

教育理念、目的

前述のとおりです。

教育目標

松本看護大学が養成する人物像とその人材像を内包する 3 つの柱を策定し、この柱を軸に人材の育成を目標とする。

1) 養成する人物像

生命の尊厳に基づく倫理観と幅広く深い教養を有し、生涯を通じて知識・技術を学び続け、地域の保健医療福祉に対する理解と看護に必要かつ十分な知識と素養を有し、多職種と連携・協働し、地域の保健医療福祉の向上に貢献できる看護実践能力をもった看護職者

2) 養成する人物像に内包される 3 つの柱

(1) 人間性

- ・生命の尊厳に基づく倫理観を有し、幅広く深い教養と誠実な人間性を備え、多様な価値観を尊重し、人々との関係を成立・発展できる人材
- ・生涯を通じて自ら学び、社会人としてまた、専門職業人として自己研鑽と自己成長を通じ看護の発展と地域貢献のために主体的・積極的・意欲的に行動できる人材

(2) 看護実践力

- ・看護に必要な知識の追求と素養を有し、科学的根拠・理論的知識を元に安全に個別的に最善の看護が実践できる人材
- ・生命力、自然治癒力、意志力といったその人のもてる力を最大限生かした看護が実践できる人材

(3) 地域貢献

- ・地域の保健医療福祉に対して深い洞察力と分析力を有し、その現状を理解し、また、健康課題を明らかにし、地域の発展のために多職種の人々と協働し、貢献できる人材

アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

- (1) 入学後の大学教育に必要な基礎学力を有している人
- (2) 看護・保健・医療・福祉分野に広く関心のある人
- (3) 人間の生命を大切に思い、誠実な態度で他者と関わることができる人
- (4) 看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している人
- (5) 人々と良い関係を持ち、自分の考えを的確に表現する力が備わっている人
- (6) 主体的に考え行動できる人
- (7) 大学で学んだ看護学を地域社会の為に生かそうという志のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- (1) 多様な人々との関係を成立・発展できる能力を身につけるための科目を教養科目、専門科目に配置する。
- (2) 主体的行動力を身につけるための科目を教養科目、連携科目、専門科目に配置する。
- (3) 地域貢献力と多職種連携能力を身につけるための科目を連携科目、専門科目に配置する。
- (4) 課題発見能力と課題解決能力を身につけるための科目を連携科目、専門科目に配置する。
- (5) 看護の知識と看護実践力を身につけるための科目を教養科目、専門基礎科目、専門科目に配置する。
- (6) 地域の多様な健康課題に対応できる力を身につけるための科目を教養科目、専門基礎科目、専門科目に

配置する。

(7) 授業形態は教育の目的に応じて講義形式、演習形式、実習形式の3つに区分し、下記の方針に従った教育方法を行う。

- ・知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式をとる。
- ・態度・志向性及び技術や技能の修得を目的とする教育内容については、演習形式をとる。
- ・理論と実践の統合を図り、臨地の場において理論的知識や技術を看護実践に活用展開するための能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式をとる。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

所定の卒業要件単位を取得し、次のような能力、資質を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士(看護学)の学位を授与する。

- (1) 多様な人々との関係を成立・発展できる能力
 - ・人間性豊かな生命の尊厳に基づく倫理観を有し、多様な人々との関係を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を有する
- (2) 主体的行動力
 - ・自立した社会人として主体的かつ意欲的に行動することができる
- (3) 地域貢献力と多職種連携能力
 - ・在宅看護学、救急・災害看護学、公衆衛生看護学の選択分野を学修し、保健医療福祉の関連分野の人々と連携・協働し、地域保健医療の充実と発展に貢献できる基礎的な能力を身につけている
- (4) 課題発見能力と課題解決能力
 - ・看護現場における課題を発見し、その解決のための方法を探究し、その成果を実践することができる
 - ・看護の発展に寄与できる自己研鑽力と基礎的研究能力を有する
- (5) 看護の知識と看護実践力
 - ・地域の特性や対象となる人々を理解し、尊重し、多様な人々の看護に必要な知識を身につけ、科学的根拠に基づき安全な看護を実践する能力を有する
- (6) 地域社会と多様な健康課題に対応できる力(保健師課程)
 - ・科学的根拠と文化的感受性をもって地域社会の健康課題を把握・分析・診断する能力を有する
 - ・集団や組織に対し支援・協働・施策化を通じ、人々の健康増進能力を高め、健康課題を解決するための基盤となる能力を有する

1) 入学試験に関する状況(令和7年度入試)「別紙5参照」

入学定員70名に対し、72名(男18名、女56名)が入学しました。

2) 国家試験に関する状況

令和7年2月14日に第111回保健師国家試験、令和7年2月16日に第114回看護師国家試験が行われ、保健師国家試験は受験者19名に対し16名が合格、看護師国家試験は受験者72名に対し71名が合格しました。

3) 教員組織、教員数並びに各教員が有する学位及び業績

ホームページに掲載しています。

<https://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績」)

4) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

「シラバス(看護学部 看護学科)」に記載しています。

<https://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「概要」→「松本看護大学 令和 6 年度 シラバス」)

5) 学修の成果に係る評価及び卒業にあたっての基準

ホームページに掲載しています。

<https://www.matsutan.jp/college/report>

(学修の成果に係る評価：トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「4. 学修成果に係る評価」)

(卒業にあたっての基準：トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「5. 卒業にあたっての基準 (必修・選択別の必要単位修得数及び修得可能学位)」)

6) 授業料、入学金、その他徴収する費用

ホームページに掲載しています。

<https://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「1. 教育研究上の基礎的な情報」→「5. 授業料、入学料その他大学が徴収する費用」)

7) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

<https://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「6. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援」)

<主な事業計画>

- 1) 教育に関する計画
- 2) 学生支援に関する計画
- 3) 入学者の受け入れに関する計画
- 4) ステークホルダーとの連携に関する計画
- 5) 施設・設備に関する計画
- 6) 運営に関する計画

<計画の進捗状況>

1) 教育に関する事項

a. 1 期生 (4 年生)「看護の応用と発展」関連科目の臨地実習の開始

本学の看護教育の特徴の 1 つである上記関連科目の 3 分野の臨地実習が令和 6 年度 4 月開始されました。

「救急看護」は 21 名が、「災害看護」は 34 名が各医療機関で災害時の準備体制やトリアージ、救急法を学び資格も取得しました。実習を終えた学生達は、将来的には災害時の救護班の一員として、フライトナースとして働きたいなど夢を膨らませておりました。

「多職種連携」実習では 16 名が松本市地域包括支援センター 7 施設に分かれ、健康教室や訪問指導などを通し、多職種が連携協働することによって、人々が住み慣れた地域で健康で自分らしく生活するためのかわりの魅力を実感した実習となりました。実習を終えた学生達は、看護師になった場合、まずは新人として医療現場に就職し、臨床経験を積み、将来的には地域に密着した看護活動の構想を描いていました。

「公衆衛生分野」では木曽地域、塩尻地域などでは市町村保健師活動を実習し、また松本、諏訪、木曾など 5 カ所の保健所にて保健師活動の実習を行いました。保健師の視点で看護師の役割が見え視野が広がったようです。全国の看護大学系でこのような地域のニーズに即したカリキュラムと実習は本学が初めてであり、他大学の関心のあるところでは。松本市の特色とニーズに即したカリキュラムは何年かの蓄積が必要で松本地域の

特色をふまえた地域密着型の実習が行われるようになることを願っています。

b. 1 期生【4 年生】卒業論文作成、提出までの指導

4 年間の大学での学習成果を集大成して、自己の看護観と興味関心によって抽出されたテーマで研究プロセスに沿って論文を仕上げてまいりました。各教員は 5~3 名の学生を受持ち、論文作成の指導を行い、12 月 10 日提出締め切りには全員(74 名)提出できました。研究方法は文献研究 (32.4%) 量的研究 (28.4%)、事例研究 (27.0%)、質的研究 (9.5%)、準実験研究(2.0%)で、有意義な論文に仕上がっております。この卒論は製本して図書館に保管し後輩たちの参考としてまた本学の卒論として集積してまいります。

c. 1 期生 (4 年生) 国家試験体制の徹底指導の実際

完成年度を迎え、本学最初の国家試験を迎えました。保健師国家試験日が R7(2015)年 2 月 14 日 (金)、看護師国家試験日は、R7(2015)年 2 月 16 日(日)に行われました。結果、保健師 3 名、看護師 1 名が不合格となり、合格 100%を目指してきましたが、叶いませんでした。令和 7 年度においては、不合格となった卒業生も踏まえて国家試験対策についてより細かなフォローを徹底し、100%合格に向けて国家試験対策担当教員を中心として学部一体となって取り組んでいきます。

d. 2 期生の実践領域の臨地実習指導の在り方と課題の明確化

本学では開学して 2 年目に新カリキュラム改正がありましたが、新カリキュラムを視野に入れたカリキュラム構築であったため、地域・在宅実習が 2W→3W,成人急性期看護実習が 3W→2W,成人慢性期実習が 3W→4W,老年看護実習が 4W→3W にと実習単位は変更になりましたが総実習単位には変更はありません。臨地実習は前年度の臨地実習指導を踏襲し、実習の質向上に努めてきました。その中でも定期的に臨床側との打ち合わせ会議が行われるようになり、意見交換によって、良い指導体制や指導内容の検討もされるようになりました。昨年度に続き、今年度も令和 7 年 3 月 10 日 (月) 指導者連絡会を全実習施設の指導者様方が一同に集まり振り返りを行い、さらに来年度に向けて課題解決等を進めました。学生がのびやかに主体的に創造的に実習を行えることは、学生を大きく成長させます。そのような実習展開ができるよう進めてまいります。

e. 教員の研究論文の提出

今年度は紀要の創刊号に各領域で 1 本ずつ掲載できるよう学内にて研究活動が活発となるよう周知しておりましたが、結論的には紀要掲載は 1 件でした。学会発表は行っていますが論文化するための研究時間の捻出ができなかったのではないかと考えます。紀要の原稿提出日と実習指導の日程が重なっていたため、今後は紀要論文を提出しやすい環境を整備していく必要があると考えております。学内全体での研究活動の活発化を推進していけたらと考えております。

2) 学生支援に関する事項

a. 障害を持つ学生への合理的配慮の実施体制の確立

今年度より、合理的配慮の提供が義務化施行されました。本学においては、現在、合理的配慮を求めるための診断書の提出により申し出が 2 件ありました。学内の演習や臨地実習において、学生は科目毎に代わる教員には本人が自ら申し出て了解を得るなど自主的に行い、臨地実習においても同様に行っており、円滑に学習継続できております。個人情報であるため自己判断・自己決定で臨床実習指導者や科目担当教員に了解を取るなど、必要に応じ教員が付き添ったりし自己の力が発揮できる状態で実習を行っています。

b. キャリア支援の充実

看護部長経験を有する教員を中心に、4 年間のキャリアデザインを形成する教育プログラムを作成し、学年ごとに積み上げてきました。インターンシップが 3 年生のゴールデンウィークから挑戦する学生もおり、2 年次後期春休みから進路相談や施設選択決定にキャリア担当教員やチューター教員が連携して支援してまいりました。信州大学病院やまつもと医療センターなど国公立は 3 月願書、4 月就職試験が行われ、本学からも 10

名近い学生が受験し内定を得ており、他医療施設においても早まっている傾向があります。4年生5月には約50%が、8月には100%の学生が第一希望の内定を得ております。早々に内定した学生は後輩の技術演習に入って指導するなど”ピアラーニング”を行い後輩たちから好評を得ており、自分自身も技術の学びなおしを行うなど、看護実践力の向上の再学習を行いました。最終的に就職希望者全員が内定を得ることができました。卒業生の進路データについては「別紙4」をご参照ください。

c. チューター制度の取り組み

1学年8～10名の4学年の学生を、7つのグループに各学年を無作為に配分し、教授をリーダーに准教授、講師、助教、助手の5～4名の教員でチームを組んで学生に関わり支援してきました。今年度は4学年が揃い4月のオリエンテーション期間には先輩後輩顔合わせ会を行い相互に絆を深めました。学園祭や部活動、試験の時など先輩が後輩の面倒を見ている様子などほほえましいものがありました。また学年顧問はその学年全体を俯瞰し、その学年全体の課題に取り組んできました。特に4学年顧問は国試受験や卒業に向けてなど学年としての考えをまとめ進めました。

d. 高等教育修学支援新制度

高等教育修学支援新制度の対象機関として、授業料及び入学金に関する減免制度を活用しています。今年度にこの制度を活用した学生の実績は下表のとおりです。

表. 令和6年度 松本看護大学 高等教育修学支援新制度活用実績

学部	学年	授業料				入学金		合計(円)
		前期		後期		人数	減免額(円)	
		人数	減免額(円)	人数	減免額(円)			
看護学部	1	9	1,925,200	6	1,604,200	9	1,100,200	4,629,600
	2	2	204,200	3	583,400			787,600
	3	13	3,004,500	9	2,187,500			5,192,000
	4	16	3,967,300	14	3,733,000			7,700,300
合計		40	9,101,200	32	8,108,100	9	1,100,200	18,309,500

(参考：令和6年度 松本看護大学 奨学金の受給状況)

学部	学年	日本学生支援機構				看護職員 修学資金	その他	合計 (件)
		計	一種	二種	給付			
看護学部	1	28	8	11	9	1	9	38
	2	33	11	16	6	5	11	49
	3	39	11	15	13	0	11	50
	4	48	18	14	16	2	13	63
合計		148	48	56	44	8	44	200

※看護職員修学資金＝長野県看護職員修学資金

特待生

今年度の特待生は以下の方です。

4年生

3) 入学者受け入れに関する事項

a. オープンキャンパスの効果的実施

令和 6 年度の学生募集では、各入学試験での受験者のうち約 75%がオープンキャンパスに参加していました。このことから、多くの高校生をオープンキャンパスに呼び込み、オープンキャンパスを効果的に運営し、その後フォローを十分に行って、受験に結び付けることが重要と考えています。そのため、令和 7 年度学生募集においては、主として高校生に本学を知っていただくためのツールを充実させ、そこから資料請求、資料請求者へのオープンキャンパスの案内につなげていくよう広報活動を行ってまいりました。

令和 6 年度内に実施した計 4 回のオープンキャンパスの参加者は保護者を除いて 202 名となり、昨年度（207 名）と同等程度の人数となりました。高校生においては、3 年生の参加者が 106 名に対し、1・2 年生の参加者が 95 名となっております。また、保護者の参加者は 152 名であり、前年度よりも増加しております。

高校生の進路選択が早まっていることから、受験に結び付く高校 3 年生はもとより、低学年もターゲットとして、今後ともオープンキャンパスに呼び込むよう広報活動を行っていきます。また、保護者向けのコンテンツについても検討を進めていきたいと考えております。

b. ガイダンスの有効活用

オープンキャンパスのほかに、高校生と直接コミュニケーションがとれるのが、各種ガイダンスです。ガイダンスは業者主催のもののほか、高校独自で開催されるものと、本学教育による出前授業があり、近年高校訪問の強化により、高校主催のガイダンスへの参加や出前授業の実施の機会が徐々に増えてきていることから、これらを学生募集の有効な手段として積極的に参加してまいりました。

c. 入学試験の学生の指向への対応

早期に入学先を決定したいとの傾向が強まってきており、総合型選抜、指定校推薦選抜、公募推薦選抜での入学生の確保に力を入れていく必要があります。前述のとおり、オープンキャンパスのほか、高校の進路指導室との連携を強化しつつ、指定校を県外の高校に拡大し、指定値と指定枠の効果的な展開を図っていきます。

d. 学内情報の効果的提供

高校生や保護者、高校の担当教員に対し、本学の魅力を効果的に発信していくため、パンフレット、学報、ホームページ、SNS を活用したタイムリーな情報発信や新聞等のマスメディアへの露出の頻度を上げていくための広報活動を行ってまいりました。

4) ステークホルダーとの連携に関する事項

a. 公開講座

本年度は松本短期大学との共催にて計 3 回公開講座を実施し、松本看護大学において企画したものととして 8 月 24 日（土）に「人生 100 年時代を生きる・・・人生会議、はじめてみませんか」をテーマとした公開講座を開催しました。命の危機が迫ったとき、人生の最後にどうありたいかを、前もって考え、家族をはじめ周囲の人と話し合いをしておこうという取り組みです。理論的説明とグループワークを行いました。参加者 43 名からその必要性がよく認識できたという高評価でした。

令和 6 年度 公開講座開催状況

開催日	内容	講師等
8 月 24 日（土）	人生 100 年時代を生きる・・・ 人生会議、はじめてみませんか	・安田裕子氏（松本看護大学 教授） ・関永信子氏（松本看護大学 准教授）
10 月 26 日（土）	こどもといっしょにわくわくコンサート	・松本短期大学 幼児保育学科

11月30日(土)	安心して地域で暮らせるまちづくりー災害について地域の皆さんとともに考えるー 「避難所運営ゲーム(HUG)を通して災害について考える」	・本講座の趣旨説明 合津千香氏(松本短期大学介護福祉学科 教授) ・講評 宮坂政行氏(松本市危機管理課)
-----------	---	---

b. 地域交流・地域貢献活動

地域単位や小中高等学校からの依頼によって、健康について、看護の仕事についてなど教員が出向き講義や実習などを行いました。災害時における母子安全のためのかかわり方や笹賀地区の災害訓練(炊き出し)や障がい者球技大会などのボランティアや災害時の模擬患者体験など学生と教員も一緒に参加いたしました。

5) 施設・設備に関する事項

2.(1) 学校法人松本学園 事業の概要に記載しています。

6) 運営に関する事項

a. 情報提供体制に関する計画

完成年度を迎え、4学年の学生に関する事項、各領域・委員会からの情報提供体制を強固とするため、拡大教授会においての情報交換が重要であると認識し、そのために学長・学部長への情報提供や相談、そのうえでの指示を適切に行えるよう学長・学部長を中心に取り組んでまいりました。

拡大教授会を中心とした情報提供体制(ガバナンス体制)はこの4年間で整備されてきておりますが、今後とも学長・学部長への情報集約体制がより強固となるよう、事務局とも連携したうえで整備していく必要があると考えております。

b. 認証評価への準備

令和8年度に認証評価受審を予定しております。現在、自己点検・評価委員会を中心として毎年度の自己点検・評価報告書作成に伴う根拠資料の整理を行っております。報告書内に記載した情報について、数値化した根拠で示し、それに伴う資料の作成・整理・保存を各員会担当者に指示し、自己点検・評価委員会に情報が集約できる体制整備に取り組んでおります。

7) その他

a. FD活動

来年度以降の授業に活かすため、学生による授業評価を実施しました。実施方法はQRコードを学生がスマートフォン等で読み取り、学生自身の授業に取り組む意欲や教員の作成した資料のわかりやすさなどを4段階で評価するアンケート形式で継続して実施しました。自由記載欄も設け、学生は回答をFormsに入力し、担当者がFormsにより自動集計された結果を出力し授業担当者に配布しています。回答に対するフィードバックについては、Teams上で公開し、学生が確認できるようにしております。

FD研修会は2月27日(木)に信州大学教育開発センター 加藤嘉子教授を講師として「講義のためのアクティブラーニングー事前事後学習を組み込んだアクティブラーニングの実践ー」をテーマにご講演いただき、アクティブラーニングについての実践的な方法論についてグループワークを交えて学びました。

b. 学生動向

令和6年度の学生動向は下表のとおりです。

表. 令和 6 年度 松本看護大学 学生動向

学部	入学年度	年度当初在籍者数	退学者数	除籍者数	卒業者数	年度末在籍者数
看護学部	24	65	3	0	-	62
	23	67	1	0	-	66
	22	75	4	0	-	71
	21	77	1	0	72	4
計		284	9	0	72	203

<今後の課題>

- ・就職支援
- ・国家試験対策
- ・入学生確保について検討
- ・認証評価に向けての対応

(2) 松本短期大学 事業の概要

建学の精神

前述のとおりです。

教育理念

前述のとおりです。

教育目標

松本短期大学は教育理念を受けて、「命・可能性・権利を保証し、その人らしい生活を支えるケアスペシャリスト」を育成するために、2学科に共通する「ひとの命と健康を考える」「ひとの可能性を考える」「ひとの生活を考える」「ひとの権利を考える」「学修の基礎力を培う」の5つの柱を掲げ、ケアスペシャリストの養成教育を行う。また、地域のニーズを把握し、地域に寄与できる実践能力を育成するとともに、地域に密着し、幅広い視野に立ち、連携・協働できる人間関係調整力を養う。

1) ケアスペシャリストとしての人間性と倫理観の育成

本学では、保育士及び幼稚園教諭・介護福祉士に必要な専門職としての自覚・責任感・倫理観をもち、信頼関係を築くことができるケアスペシャリストとしての豊かな人間性を育成する。

2) ケアスペシャリストに必要な専門的知識・技術・思考能力の育成

本学では、専門職に必要な基本的、かつ専門的な知識と技術を教授し、その知識と技術を安全に提供でき、さらに応用できる思考の基礎を育成する。

3) 地域における保健医療福祉及び教育の多様化・個別化するニーズに応える実践能力の育成

本学では、地域における保健医療福祉及び教育の多様なニーズを把握し、個別のニーズに対応できる確かな実践能力を育成する。

(幼児保育学科)

幼児保育学科では、本学の建学の精神、2学科の教育理念、教育目標より、以下の教育目標を掲げています。

1. 保育及び幼児教育に携わる専門職業人としての自覚・責任感・倫理観を育成する。
2. ケアスペシャリストとして、人と信頼関係を築くことができる豊かな人間性を育成する。
3. 保育及び幼児教育に携わる専門職業人に必要な専門知識・技術・思考能力を育成する。
4. 地域における保育及び幼児教育の多様化、個別化するニーズに応える実践能力を育成する。

(介護福祉学科)

介護福祉学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育目標より、以下の教育目標を掲げています。

1. 豊かな感性を備え、人への深い関心をもち、個人の尊厳を守り、信頼関係を築くことができる人間教育を行う。
2. 社会的期待に応えることができるよう介護福祉の倫理のもと、介護福祉の専門的知識と技術を修得し、さまざまな課題を解決できる力を養う。
3. 地域に開かれ地域に密着した教育を行い、広い視野に立って多職種との連携・協働を考えることのできる力を養う。

アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)

(幼児保育学科)

豊かな人間性を備えたケアスペシャリストをめざし、専門知識と技術を身につけ、地域社会に貢献できる人を育成します。それに基づき、幼児保育学科では、以下のような学生を求めます。

- 1) 子どもの育ちと生活に興味・関心がある。
- 2) 誠実に人と向き合える。

- 3) 人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる。
- 4) 学びや体験の機会に意欲的に取り組むことができる。
- 5) 入学後の学修に必要な基礎学力がある。

(介護福祉学科)

本学は「豊かな人間性の涵養」と「ケアスペシャリストの育成」を教育理念としています。それに基づき、豊かな感性を備え人と関わり、専門的知識・技術を身に付けて、地域社会に貢献できる学生を求めます。

- 1) 介護福祉や社会福祉に関心を持ち、学ぶ意欲をもっている
- 2) 人の立場になって考えることができる
- 3) 人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる
- 4) 人とともに協力して活動に取り組むことができる
- 5) 入学後の学修に必要な基礎学力がある

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

(幼児保育学科)

教育目標とそれに関わるディプロマ・ポリシーに鑑み、保育及び幼児教育に関わる課題を、理論と実践の両面から思考し、また実践できる能力を養うため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成しています。

授業科目は、教養基礎科目と専門科目があり、これを2年間に配当します

- (1) 教養基礎科目は、本学の目標である「命・可能性・権利を保障し、その人らしい生活を支えるケアスペシャリストの育成」という観点から、2学科共通の教養基礎科目の枠組みに基づき編成しています。
- (2) 専門科目は、【保育の基礎】【子どもの成長と発達】【感性を高める想像力と創造力】【児童家庭福祉】【保護者支援】【保育実践力】【教養力】【自己形成】の各分野から配置しています。

(介護福祉学科)

カリキュラムは、「教養科目」と領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」で編成し、これらを2年間に配当しています。

「教養科目」は、専門職としての価値・知識・技術をもって成長し続ける力を養うための土台作りの科目として編成されています。特に豊かな人間性を育むこと、短期大学での学び方の基礎に身につけること、進路設計・進路選択を考えることを重視しています。

領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」は、介護福祉士国家試験受験資格に関わる専門科目から構成されています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)、修了認定の方針

(幼児保育学科)

本学科に2年以上在学し、本学の「建学の精神」「教育理念」「教育目標」に基づいて設定した学科の授業科目を履修し、規定する必要単位を修得した学生は、次の到達目標に達した人材であると設定し、「短期大学士」の学位を授与します。

- 1) 基本的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を備え、福祉、保育、教育に携わる社会的責任と倫理観について理解している。
- 2) ケアスペシャリストとして必要な保育及び幼児教育に関する基礎的知識と技術を習得している。
- 3) ケアスペシャリストとしての自覚を持ち、他者との信頼関係構築の重要性を理解できている。
- 4) 社会福祉の視点に立って、その最善の利益を保証できる思考力と実践力を修得している。
- 5) 保護者ニーズを的確に捉え、地域・関連機関と連携することの必要性を理解している。

(介護福祉学科)

本学科に2年以上在学し、本学の「建学の精神」「教育理念」「教育目標」に基づいて設定した学科の授業科

目を履修し、規定する必要単位を修得した学生は、次の到達目標に達した人材であると認定し、「短期大学士」の学位を授与いたします。

- 1) 温かいこころと豊かな感性を備え、人への深い関心もち、個人の尊厳を守り、信頼関係を築くことができている。
- 2) 介護を必要とする人の自立支援と、地域におけるその人らしい生活を支えることのできる専門的知識と技術を修得している。
- 3) 根拠に基づいた介護過程の展開ができ、質の高い利用者本位のサービスを考えることができている。
- 4) 常に問題意識をもち、介護実践の質的な向上や介護をめぐる課題について探求し、より良い介護を追求できている。
- 5) 多職種や地域住民との連携・協働の必要性を理解できている。

1) 入学試験に関する状況（令和 7 年度入試） 「別紙 5 参照」

幼児保育学科は入学定員 80 名に対し 59 名の入学者、介護福祉学科は入学定員 40 名に対し 32 名の入学者となりました。幼児保育学科及び介護福祉学科の両学科ともに昨年度より入学者は増加となりましたが、入学定員を確保することができませんでした。

2) 国家試験・資格・免許状に関する状況

幼児保育学科

幼児保育学科では令和 6 年度卒業生数 69 名のうち、67 名が保育士資格を取得、66 名が幼稚園教諭二種免許状を取得いたしました。

介護福祉学科

介護福祉学科では、平成 29 年度より、介護福祉士養成校の卒業生に対しても介護福祉士国家試験が始まりました。カリキュラムに特別講座を盛り込むほか、正課外においても模試や対策講座、チューター単位での勉強会等を実施し、国家試験対策を行ってきました。令和 7 年 1 月 25 日（日）に第 37 回介護福祉士国家試験が実施され、令和 5 年度入学の学生 21 名が受験し、21 名全員が合格という結果となりました。

介護福祉士国家試験 各年度の受験者数、合格者数、合格率などは下表のとおりです。

受験年度	学科等	卒業生数	受験者数			合格者数	不合格者数	合格率 (%)	
			当該卒業年度受験者	既卒受験者	合格率 (%)			本学	全国平均
H30	介護	36	35	35	-	33	2	94.3	73.7
	専攻科	1	1	1	-	1	0	100.0	
R01	介護	37	37	37	-	35	2	94.6	69.9
	専攻科	4	4	4	-	4	0	100.0	
R02	介護	29	28	28	-	26	2	92.9	69.9
	専攻科	4	3	3	-	3	0	100.0	
R03	介護	26	26	26	-	24	2	92.3	72.3
R04	介護	33	31	31	-	30	1	96.8	84.3
R05	介護	25	24	24	-	24	0	100.0	82.8
R06	介護	21	21	20	1	21	0	100.0	78.3
合計		216	210	209	1	201	9	Ave97.1	75.9

3) 教員組織、教員数並びに各教員が有する学位及び業績

ホームページに掲載しています。

<http://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績」)

4) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

各学科のシラバス [履修ガイド] に記載しています。シラバスはホームページに掲載しています。

<http://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「概要」→「令和3年度 シラバス [履修ガイド]」)

5) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了に当たっての基準

ホームページに掲載しています。

<http://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「4. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了に当たっての基準 (必修・選択別の必要単位取得数及び取得可能学位)」)

6) 授業料、入学金、その他徴収する費用

ホームページに掲載しています。

<http://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「1. 教育研究上の基礎的な情報」→「4. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」)

7) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

ホームページに掲載しています。

<http://www.matsutan.jp/college/report>

(トップページ→情報公開→「2. 修学上の情報等」→「5. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援」)

8) 卒業者数、修了者数、学位授与数

前述のとおりです。

<主な事業の計画>

- 1) 教育に関する計画
- 2) 学生支援に関する計画
- 3) 入学者の受け入れに関する計画
- 4) ステークホルダーとの連携に関する計画
- 5) 施設・設備の整備計画
- 6) 運営に関する計画
- 7) その他

<計画の進捗状況>

- 1) 教育に関する計画
 - a. 学生が成長する教育の実践

幼児保育学科

令和5年度より保育実習の実施時期を2月、3月に移行し、令和6年度も継続したことにより学生の学びへの効果、就職活動への影響について大変良い効果を出すことができました。具体的には、施設への意識が高ま

り、施設に興味を持つ学生が増えてきました。学生からは施設見学の希望もあり、法人見学ツアーを実施（児童養護施設木曾ねざめ学園、障がい者支援施設上松荘）し、就職への意識を高めることができました。また実習や採用試験で求められるピアノ演奏技術に対する学生の苦手意識を解消するため、令和 5 年度から令和 6 年度に実施してきた正規授業以外の補習の組み込みは、大変効果が出て、楽器が所有できない学生にとっても学習成果が出ております。令和 7 年度も引き続き実施していきます。また、教育実習指導においても、正規授業以外の補習を取り入れなど、個人に寄り添う時間が多く取れたことは学生にとっての問題解決になりました。

介護福祉学科

多様な学生が学びあうことにより、ケアスペシャリストとしての知識・技術・倫理観の習得のみならず、個々の特徴を活かし次の段階である社会人として活躍できるよういたしました。そのために、教員が、学生が成長する学習環境を整え実践してまいりました。

教養科目としての「初年度教育」「地域生活と文化」等において、読む・聞く・書く・考える・見る・感じる・交流することを全教員で意図的に行いました。入学前課題の生物基礎の試験やビブリオバトル、感謝を伝える、笹賀めぐり、信州の文化・産業・郷土食等を教材として個人の基礎学力や感性や能力を伸ばすような取り組みを行いました。また、今年度、笹賀公民館で 2 回高齢者との交流会を行いました。さらに、情報リテラシーの実践として、自分の興味のある課題について情報収集し、課題論文の作成、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いました。2 年次の介護福祉研究発表につなげることができました。「キャリアデザイン」は 2 年間にわたり、実習前教育としてのマナー講座や就職相談への参加、国家試験対策講座等によりキャリア教育を行いました。

このような教養教育と専門教育をあわせ、今年度も長野県社会福祉協議会主催の「介護技術コンテスト（ケアコン）」に 2 部門の優秀賞を受けることができました（4 年連続）。また、介護福祉士国家試験に全員合格をし、全員の就職が決まり、それぞれの個性が輝き、成長する姿を見ることができました。

b. 学習成果を質的・量的に測定する方法（学びの軌跡）の実行

令和 5 年度より運用を開始した学習成果の測定・評価・フィードバックを行う「学びの軌跡」システムについて、教育課程委員会を中心として入学から卒業までの運用方法等について検証・評価・改善を行いました。検証・評価については、個人の相談等に寄り添える資料となり大変重要であることが分かりました。卒業を控えている 2 年生の最後の面談時期をどこでするか今後の検討課題として認識しております。その他検討事項が発生した際は学科ごと検討していき、より効果的な運用となるよう取り組んでいきます。

学習成果の質的・量的測定については前回の第三者評価（認証評価）において「向上・充実のための課題」とされております。これらの課題を受けて、令和 4 年度に学習成果を学生および教員が把握するための資料として「学びの軌跡」を作成しました。令和 5 年度より運用を開始し、すべての学生に対し、教員による面談を実施し、個々の学習成果獲得状況を指標化し、自己分析することが可能となりました。令和 6 年度は、2 年間「学びの軌跡」を運用した学生が卒業いたしました。運用方法は、2 年生の最後の面談時期について課題はあるものの、学生や教員にとって学習成果を「見える化」できるシステムとなりました。今後、継続的な運用を行うとともに、教育課程委員会を中心として課題、改善を行ってまいります。次回認証評価に向けた情報収集、分析、改善方法について令和 6 年度以降も継続して検討を行ってまいります。

2) 学生支援に関する計画

a. 学生生活の支援

学生の心身に関する対応、相談等については保健管理センター（保健室）にて常勤職員を配置しておりカウンセリングなども行われてきました。その報告は、月 1 回詳細に示された内容が、学科長に報告されてきております。問題点等については、学生支援委員会を中心として、看護大を含めた教職員全員のチーム体制で情報

共有を行い、対象学生の問題解決に取り組んでいきました。支援を要する学生について、令和5年度よりフローチャートを作成し、個別の支援を必要とする学生についての対応を行っていますが、令和6年度より、障害者に対する合理的配慮の提供が義務化されることから、学生からの相談等について迅速に対応できるよう体制整備に取り組んでいます。

幼児保育学科ではゼミナール制、介護福祉学科においてはチューター制をとっており、複数人単位で専任教員が学生に対して、学生生活の悩みや学習習慣への支援をしております。令和5年度より「学びの軌跡」を導入して、学習成果に結び付け学生生活も振り返りが出来るようになって。より支援体制を充実させております。

b. 健康支援対策

新型コロナウイルス感染症については、完全に収束しておらず、感染者が拡大すると実習において支障をきたす状況が発生します。令和6年度においては、引き続き新型コロナウイルスに限らず、インフルエンザなどの感染対策を継続し、感染状況に応じて、消毒作業、手洗い・換気等の基本的感染対策の促進等、必要な対策を徹底していくとともに、国・県などの方針変更に即して対策を講じてきました。感染により出席停止となる学生に対して、受講機会の減少により成績評価に悪影響が出る事が無いよう授業にも対策を講じてきました。

c. キャリア支援

幼児保育学科ではキャリア形成の授業、SPI対策や模試等を通し、学生の就職意識を高めてきました。自治体による就職説明会を1年生に対し実施(12/5・20名来校)し、次年度の自治体採用試験に備えてきました。また学生部との連携も強化し、いち早く採用情報を入手し学生に提供してきました。

介護福祉学科では、学習支援として教員間の情報共有と支援の方向性を多様な学生への個別対応をしました。資格取得支援として、介護福祉士国家試験対策やケアセラピスト資格取得などの支援を行いました。就職及び進学支援として、学内就職相談会、同窓会主催による就職相談セミナー等を実施しました。

進学、就職支援

進学、就職活動支援に関しては、事務局学生部と学生支援委員会（教員組織）が連携して行っています。

学生部では、県内外の保育園、幼稚園、障害者支援施設、老人福祉施設、病院などから送付される求人票やパンフレットを施設別に整理して、関係学科別にコーナーを設けて学生の閲覧に供しています。県内求人は求人票を、県外求人は求人一覧表を学生部前の掲示板に張り出して求人情報を提供しています。

就職に関しては、各学科の授業の中で、キャリア支援に関して時間を取って注意点を説明し、個別の指導に関しては各学科のチューター、ゼミ担、学生部の担当者等が履歴書のチェック、面接指導等を実施しています。幼児保育学科では自治体向けの就職説明会、介護福祉学科では介護福祉施設等の就職説明会を学内にて開催し、学生への就職支援を実施しました。

進学については、全国の大学、短期大学、専門学校から送付される入学案内などに関し、進学関連コーナーを設けて閲覧に供し、進学希望の学生には学科と連携して個別指導をしています。

令和6年度卒業生の進学、就職データは「別紙4」をご参照ください。

高等教育修学支援新制度による授業料減免

高等教育の就学支援新制度である授業料減免について、対象機関として認定されおります。今年度にこの制度を活用した学生の実績は下表のとおりです。

学科	授業料				入学金		計(円)
	前期		後期		人数	減免額(円)	
	人数	減免額(円)	人数	減免額(円)			
幼児保育学科	19	4,211,300	19	4,107,600	11	1,733,700	10,052,600
介護福祉学科	6	1,446,800	6	1,550,000	2	400,000	3,396,800
計	25	5,658,100	25	5,657,600	13	2,133,700	13,449,400

奨学金

日本学生支援機構、長野県保育士修学資金、長野県介護福祉士等修学資金、生命保険協会介護福祉士養成給付型奨学金からの奨学金受給状況は下表のとおりです。

学科	学年	日本学生支援機構				保育士 修学資 金	介護福 祉士等 修学資 金	生命保 険協会 給付型 奨学金	合計 (件数)
		計	一種	二種	給付				
幼保	1	37	12	13	12	20			57
	2	38	8	20	10	20			58
介護	1	4	2	0	2		3		7
	2	10	3	3	4		11	1	22
合計		89	25	36	28	40	14	1	144

特待生

今年度の特待生は次の 2 名です。

幼児保育学科 2 年生

介護福祉学科 2 年生

3) 入学者の受け入れに関する計画

a. 入学定員確保に向けた取り組み

入学者の多くがオープンキャンパスに参加している現状を踏まえ、オープンキャンパスの充実と参加を促す広報活動を重点に置いてきました。令和 6 年度のオープンキャンパスは計 5 回開催し、参加者は保護者を除いた人数が合計で 275 名（前年度比 58 名増）、保護者が 193 名（前年度比 75 名増）となり、前年度から大幅に増加となりました。

各学科においても、安定した入学定員の確保をめざし、日常的に高校生と交流しながら保育の魅力・専門性を伝えていきました。幼児保育学科においては、具体的には、出前授業の中身を検討し、高校生が興味ある内容と思われるものに切り替え、派遣講師も専門性を持った教員に出向いてもらいました。高大連携の形で高校の正規授業を学科教員が担当することはできていません。

また令和 6 年度の志願者・入学者の結果を踏まえて、オープンキャンパスやガイダンス、高校訪問等から生徒・保護者・高校のニーズを把握し、幼児保育学科の魅力が伝わる広報活動戦略を検討・実行してきました。広報企画推進委員会の入学者調査によると、入学者はオープンキャンパス参加者の出願率が高いという傾向にあることだったので、オープンキャンパスの模擬授業の中身を高校生に分かりやすく、興味があると思われるものに改善しました。その他地域との連携活動も広く拡大し、積極的に学科の特色をアピールしてきました。令和 5 年度から幼児保育学科独自で開催した、3 歳から高校生までを対象とした「サマーラボ 2023 みんなあつまれ」は、令和 6 年度においては、「幼児保育学科ラボ」と改称し、6 月と 12 月に実施し、大好評でした。

なお、高校生の進路決定の時期が早まってきている状況を鑑み、高校 2 年生を主に対象としたオープンキャン

ンパスを3月開催しました。また、同窓会との連携も大変重要な取り組みと考え、11月には今後の学生募集について同窓会と検討会を行いました。

介護福祉学科においては、令和6年度には13名と定員を大幅に下回ったので、広報活動及び諸施策のなど強化を図り行いました。介護福祉学科教員の高校訪問を令和6年3月・4月・6月下旬に行い、例年より回数を多く、時期を早く行いました。オープンキャンパスの内容や対応を工夫し、複数来たくなるような工夫を行いました。例えば、学生を主体とし高校生と関りながら体験学習を行い、高校3年生には、個別で模擬面接を実施し、保護者には学科長が説明する時間を設ける等行いました。参加者名簿で、声をかける教員を決めておき、奨学金について質問があった場合、当日、早めに予約をとって説明を聞いてもらいました。教員は、複数回来校する高校生・保護者も覚えていて関われるようにしました。中長期の入学生確保の対策として、独自の出前授業を小中高校生に行いました。また、令和6年度より、松本市が第9期介護保険計画・高齢者福祉計画により、「介護人材の確保と育成」が掲げられたことにより、松本市との包括協定・連携協定の一環として、松本市高齢福祉課と学生との意見交換会やPR活動（イベントやの参加やテレビのニュースや新聞への掲載）等の活動を行いました。また、長期高度人材育成事業の関係機関との情報共有を行うなど社会人学生の確保に向けての活動もおこなうことができました。

教職員一体となり、志願者・入学者の獲得に向けて様々な広報活動を行ってきた結果、令和7年度入学者について幼児保育学科で59名、介護福祉学科で32名となり、入学者が増加した結果となりました。オープンキャンパス参加者数の増加の影響がでていていると考えております。しかしながら、入学定員を満たすことはできていないため、令和7年度においては、広報活動をより積極的に行い令和8年度入学者の確保に努めていきます。

適切な定員管理を行っていくため、令和7年度入学定員について、幼児保育学科で従来の100名から80名に変更いたしました。また、令和8年度からの入学定員について、令和6年度中の入試状況を踏まえ、幼児保育学科の入学定員を60名、介護福祉学科の入学定員を25名と変更することが決定されております。

b. 入学前教育の充実

「保育者」となるための基礎から、入学後の専門的な学びにスムーズに移行できるように、ピアノ・漢字の書き取り・保育の基礎・SPIの4つの課題を行わせ、入学後のオリエンテーションで課題成果の確認をしました。また、入学に対して不安のある学生に対しては、入学前に面談や課題の進捗状況を確認するなど、入学に向けたサポートを行なってきました。さらに、入学後には授業の状況を確認しながら、次年度の入学生の入学後の学びに繋がる課題の検討を行ってきました。

- ・ピアノ課題では、「教則本バイエル100番」の60番までを学習してくるよう伝えていました。
- ・基礎学力課題として「7日でできる！SPI問題集2026年度版」を問いてくるよう伝えました。
- ・専門科目では、「保育の基本用語」（わかば社）、「保育のマナーと言葉」（わかば社）のテキストの予習を課題として伝えていました。

介護福祉学科では、コロナ禍以前には、介護分野に関わる動機を確立するために高齢者の施設等へのボランティアの課題がありましたが、受け入れが困難な状況にあるので現在は行えていません。今年度は入学後に必要な基礎教育として、読み書き考えることと知識の定着をする目的で、指定読書の感想文と漢字検定3級程度の学習、基礎生物の「からだのしくみとはたらき」に関する単元について行っています。入学後には、漢字と生物基礎の試験を行い、チューターより読書感想文を個別に返ししながら個別面談をしています。課題の入学後試験は、早期に入学生の実態把握と教育方針に役立っています。

4) ステークホルダーとの連携に関する計画

a. 地域とのつながり

本学の教育研究成果を地域へ還元する 1 つの方策として、地域のニーズに沿った公開講座は、令和 6 年度も松本看護大学と共に地域交流委員会を中心として本学の持つ幼児教育、保育、介護に関する知的財産を地域住民の方へ分かりやすく伝えることで地域貢献に繋げることができました。また学生参加を含めたボランティア活動や出前講座の実施等による地域貢献、地域交流活動も積極的に行ってきました。

幼児保育学科では、10 月 26 日に「保育園まつり」を松本市保育研究協議会(主催)共催で、開催しました。来場者は、幼児から保育士まで 300 名の参加者があり、学生の学び場にもなりました。同日、幼児保育学科の公開講座「こどもといっしょに わくわくコンサート」も開催しました。プログラムは、学生が主体となり、参加した子どもとの触れ合いは地域貢献になりました。

介護福祉学科では、松本市との包括協定・連携協定を行っていることにより、松本市の「介護人材の確保と育成」の施策に乗じて、独自の出前授業を松本市高齢福祉課より松本市教育委員会の校長会に配布説明をいただきました。令和 6 年度は、小中高校に対して、この独自の出前講座で 10 件、以前よりある県社協の出前講座 7 件を行いました。地域の菅野中学校とは、出前授業のほか、1 年生が松本短期大学に訪問して交流することができました。また、公開講座や住民への講演会や市・県社協・松本市社協等の外部委員などの活動を行いました。さらに、学生と共に筑北村や県社協の行事・松本市のイベント参加関連にケアセラピストのハンドケアを行うなど地域住民との交流を行うことができました。例年ボランティアとして参加している松本マラソンでは実習期間と重なり参加できない学生が多くおりましたが、松本看護大学と共同で学生教職員が参加いたしました。

学園祭「おとぎ祭」は実行委員会(自治会)を中心として 10 月に開催いたしました。今年度より松本看護大学との共催として初の開催となり、昨年度よりも多くの一般の方も多く来場し、地域とのつながりを実感できる有益なイベントとなりました。

b. 自治体との連携

幼児保育学科では、筑北村、笹賀地区福祉の地域づくり協議会、松本市、安曇野市との包括協定・連携協定に基づく事業等を推進し、地域の課題解決等に取り組んできました。自治体の委員会への教員参加や研修会への講師派遣、ボランティア参加など積極的に協力することで、自治体の政策に参画してきました。参画には学生も参加し、その学習成果を卒業研究で発表(1/16) 行うなど実りのある実績を出すことができました。

自治体との連携

- ・「家族でおいでおいでまつり 2024」(7 月) 塩尻市
- ・「まつもと未来マルシェ」(9 月) 長野県地域元気づくり支援金活用事業 松本市
- ・「長野オレンジリボンタスキリレー」(10 月) 長野県
- ・「保育園まつり」(10 月) 松本市保育研究協議会(主催)と共催 松本短期大学
- ・「松本マラソン」(11 月) 松本市
- ・「進路選択のための自治体就職ガイダンス」(12 月) 松本短期大学
- ・「あがたの森文化会館クリスマス会」(12 月) 松本市教育委員会
- ・「えんぱーくリニューアルオープンイベント」(令和 7 年 2 月) 塩尻市こども教育部保育課

介護福祉学科では、松本市との包括協定・連携協定の一環で、松本市の第 9 期介護保険計画・高齢者福祉計画(令和 6 年度～)の中に「介護人材の確保と育成」が掲げられたので、若年層向けの広報活動を松本市高齢福祉課とともに行いました。具体的には、松本市高齢福祉課と学生との意見交換会や小学校の出前授業の様子が多岐の地方のニュース時間帯に放映されたりや新聞に掲載され、松本山雅のサッカーの試合前の松本市のブースに参加するなどの活動を行いました。

公開講座開催

公開講座の開催状況は松本看護大学の項目にて記載しています。

5) 施設・設備の整備計画

2.(1) 学校法人松本学園 事業の概要に記載しています。

6) 運営に関する計画

a. 認証評価に向けた自己点検・評価活動

今年度に大学・短期大学基準協会による認証評価を受審いたしました。令和 6 年 6 月に「令和 5 年度自己点検・評価報告書」及び受審にあたり必要な資料を作成・提出し、9 月までに書面調査の実施、9 月 11 日・12 日に実地調査が行われました。実地調査においては、評価員による現地での書面調査、教職員・学生への面接調査、学内施設等が行われました。実地調査までに定期的に自己点検・評価委員会を開催し、当日の対応について、福田 ALO を中心として準備を進め、実地調査当日においても適切な対応をすることができました。評価の結果については、令和 7 年 3 月 14 日付けで結果が公表され、同協会の定める短期大学評価基準を満たしており適格と判断されました。

7) その他

① 民間活用委託訓練事業「介護福祉士養成科」訓練生の状況

民間活用委託訓練事業「介護福祉士養成科」訓練生について、令和 6 年度は介護福祉学科にて 4 名の訓練生を受け入れました。なお、令和 7 年度より幼児保育学科においても適用し、令和 7 年度より幼児保育学科では 2 名、介護福祉学科では 5 名の訓練生を受け入れております。

② 喀痰吸引等研修事業・介護福祉士実務者研修

喀痰吸引等研修事業

法改正により、介護福祉士や一定の教育を受けた介護職員等による痰の吸引等が可能となりました。本学では平成 24 年度より研修教育を行っています。令和 6 年度は 58 名が受講し、令和 7 年度 4 月末までに 58 名全員の終了しております。

介護福祉士実務者研修事業

平成 28 年度から介護福祉士の国家試験に挑戦する「実務者ルート」では、3 年以上の実務経験と 450 時間以上の実務者研修を修了していることが必要となりました。本学では、通信課程の介護福祉士実務者研修を行うための指定を受け、平成 26 年度からこの研修を開始しました。平成 30 年度より、ユマニテク医療福祉大学校（学校法人みえ大橋学園）と業務提携を行い、研修を実施しています。令和 6 年度を受講修了者は 9 名でした。

③ FD・SD 活動

授業評価

令和 5 年度より授業評価（VOICE）は Forms（インターネット）にて回答する形式に変更し、回答、集計の利便性が向上しております。自由記載の部分は該当教員へ配布し、フィードバックを Teams（インターネット）上で公表することにより、評価の透明性を高めております。

学生満足度調査

年度末にインターネット（Forms）を利用したアンケートを実施し、結果については拡大教授会にて配布することとなっております。内容については該当する各部署・学科・委員会にて検討し、改善に繋げております。

授業参観

各専任教員が他者の授業を参観し、自己の課題、改善策についての振り返りを実施しました。

FD 研修会

- ・演題：「求められるシラバスと令和7年度シラバス作成について」
講師：松本短期大学 教育課程委員会 委員長永石 喜代子氏
委員（教務部係長）荒井 京子氏
日時：令和6年11月20日（水）16：30～17：30
備考：認証評価の面接で課題になった内容への取り組み

- ・演題：講義のためのアクティブラーニング
—事前事後学習を組み込んだアクティブラーニングの実践—
講師：信州大学教育開発センター 教授 加藤嘉子 氏
日時：令和7年2月27日（木）13：30～15：30
備考：松本看護大学共催

④ 図書館

「松本短期大学研究紀要第35号」を令和7年3月31日付けで発刊しました。

令和7年3月末現在 蔵書数 図書 52,931 冊（電子ブック含む）、DVD 他視聴覚教材 1,905 点（松本看護大学・松本短期大学としての蔵書数）

⑤ 学生動向

令和6年度の各学科の学生動向は下表のとおり。

学科	年度当初在籍者数	退学者数	除籍者数	卒業者数	年度末在籍者数
幼児保育学科	122	0	0	69	53
介護福祉学科	34	0	0	21	13
計	156	0	0	90	66

<今後の課題>

- ・入学生定員数確保のための対策
- ・地域との連携強化
- ・学生の満足度向上（FD 活動の活発化）
- ・「学びの軌跡」システムにおける効果的な運用

(3) 松本短大幼稚園 事業の概要

<計画の進捗状況>

幼稚園部

1. 令和6年度の取り組み

令和2年度4月より、幼稚園型認定こども園として幼稚園部と保育園部の教育、保育が始まり4年目となりました。

(1) 幼稚園の教育方針

幼稚園での教育は、生きる力の基礎を培うため、保育者の指導のもと毎日の生活や、様々な活動や体験、遊びを通しての学びを大切にしながら、その後の教育の基礎が培われることを大切にしながら保育を行っています。文部科学省から施行されている「幼稚園教育要領」の指導内容を基に、幼稚園独自の創意工夫を加えて、幼稚園の教育目標を定め保育を行い、「幼稚園教育要領」のなかで、特に ①生きる力の基礎の育成

②豊かな心と健やかな体の育成

この二点に力を入れ指導を行い、指導の内容としては、下記の五つの領域をあげています。

- ①健康な心と体を育てる領域……「健康」
- ②自立心、人との関わりに関する領域……「人間関係」
- ③思考力の基礎を育てる領域……「環境」
- ④言葉の獲得に関する領域……「言葉」
- ⑤感性と表現に関する領域……「表現」

この五領域の指導内容を基本に、松本短大幼稚園で特に力を入れて指導する内容として、下記の4つの柱をあげています。

ア. 気づいて、試して学ぶ力

学びのある遊びや、さまざまなことに気づき、試しながら活動をして遊ぶ楽しさを経験、体験。また、外国人の先生による英語に触れ、異文化に関わる体験をする。

イ. できた、できたが増える力

運動プログラムや、山雅スポーツ指導を通して、体や心の健全な成長を願い、運動遊びを通して、できた!できた!が増え、自信と意欲を育てる。

ウ. 気持ちがつながる力

異年齢の関わり、集団で関わることにより、思いやりや 気持ちがつながる力を身に着ける。

エ. 見て触れて、感じる力

信州型自然保育の取り組みにより、自然の中でのびのび遊び、自己充実の活動をおこなう。

この4つの柱の指導内容のもと、幼稚園の生活や体験、遊びを通しての 総合的な学びを日々大切にしながら保育を行い、短大幼稚園の特徴ある指導の取り組みとして、毎月の運動プログラムの 取り組み、また英語教育では、外国人講師の先生においで頂き 英語や異文化に触れる体験もおこなっています。そして長野県ならではの、信州型自然保育に 取り組み、昆虫飼育や野菜づくり、園外保育で自然に触れる活動を行ない、自己充実のための保育や 活動を大切にしています。

このような4つの柱の設定により、指導内容をより明確に、具体的にすることができた。そして、日々の生活のなかで、一人ひとりの子ども理解を深め、子どもに寄り添い、一人ひとりの指導のねらいをもち、保育を行うことを心がけ、日々の遊び、活動、体験の様子を記録して保育を省みて、明日の保育へとつなげていくことにしています。

(2) 6 年度の幼稚園教育内容

コロナも第 5 類となり、今まで通り感染予防をしながら、保育を実施しました。特に「保育の見える化」に力を入れ、運動会、(クリスマス会)、ひな祭り会などの活動を通して、クラス全体の子どもの、活動における取り組みの様子を写真に撮り、活動に取り組む様子等を保護者に届けることとしました。プロのカメラマンをお願いして行事の子どもの様子を提供することができるようになりました。

幼稚園の特色ある指導においては、

ア. 気づいて、試して学ぶ力では

日々の生活や、学びのある遊びの環境設定、遊びからの学びを大切にしながら、毎月、2 回～4 回の外国人の先生による、英語に触れる体験や活動を行い、生活のなかにも英語を取り入れる機会を作りました。

イ. できた できたが増える力では

運動プログラムを通して、体や心の健全な成長を願い、運動遊びを通して、できた、できたが増え、自信がつき 意欲的に行動できるようになりました。

ウ. 気持ちがつながる力では

異年齢で園外保育に出かけ、お兄さん、お姉さんにあこがれの気持ち、小さい子ども達を思いやる気持ちももてた。また、松本短大の学生さんが幼稚園に交流で来てくれ、短大の授業に園児も参加させていただき、学生さんとの楽しい交流活動をすることができました。

エ. 見て触れて、感じる力では

信州型自然保育の取り組みにより、昆虫を育てたり、野菜を育て収穫したり、園外保育に出て自然に触れたり、年長組は弘法山での遊び、林業センターでの山遊びを取り組みました。

2. 園児数の概要

①令和 6 年度園児数 (令和 7 年 3 月末時点)

5 歳児	1 号 17 名			
	2 号 21 名	計 38 名		
4 歳児	1 号 16 名			
	2 号 27 名	計 43 名		
3 歳児	1 号 8 名			
	2 号 18 名	計 26 名		
満 3 歳児	1 号 12 名	計 12 名	総数 119 名	

3. 保護者とのかかわり

①幼稚園行事への参加 ・なし

②保育参観、年間 1 回 ・玄関訪問 ・個別懇談会 ・保育参観 1 回 保育参観 5/27

4. 園内研究保育や、園外の研修会参加

①職員研修会 5/16 (5 名)、柳澤秋孝 (松本短大幼稚園非常勤講師) による研修会

5. 教育実習受け入れ・短大授業参加等

①松本短期大学 2 年生実習 4 名・5/27～6/7 (見学観察実習・部分実習・半日実習・一日実習・研究保育)

②松本短期大学 1 年生実習 4 名・11/6～11/18 (見学観察実習・子どもたちとのかかわり・部分実習)

6. 預かり保育, 未就園児親子教室, 体験保育

①年間 1号認定預かり人数

- ・夏休み預かり保育 16日間 223名
- ・冬休み預かり保育 2日間 23名
- ・春休み預かり保育 0日間

②年間 2号認定特別保育

- ・土曜日希望保育 47日 198名
- ・お盆特別保育 4日 26名
- ・年始特別保育 0日

③未就園児親子教室 毎月平均 親子 20組程参加

未就園児親子教室の活動内容

- ・4月、 2回・幼稚園での遊び、砂遊び、手形スタンプ
- ・5月、 3回・新聞あそび、運動あそび
- ・6月、 3回・新聞あそび、年長組交流、楽器づくり
- ・7月、 2回・おまつりごっこ、七夕製作
- ・8月、 1回・入園説明会
- ・9月、 2回・園庭あそび、幼稚園開放
- ・10月、 3回・歯のお話、運動会、ハロウィンパーティー
- ・11月、 2回・クリスマス製作、運動あそび
- ・12月、 1回・クリスマス会
- ・1月、 3回・凧づくり、こまづくり、入園説明会
- ・2月、 1回・まとめの会（記念製作、手形スタンプ）

年間 24回を行う

④体験保育 ・6/11年長組「製作体験」

⑤未就園児開放4回 5月, 6月, 8月, 9月

7. 園外保育

①今井プール ・6/19、24、 7/4

②松本見学 ・5/29

③消防署見学 ・11/15

8. 特別保育活動

①運動保育士の先生による、課外運動遊びの指導を、毎月1~2回、運動遊び指導希望者が、保育終了後指導を受けました。

②山雅サッカースポーツクラブの運動指導を5月から2月まで、毎月1回の指導を受けました。

・年間、年少組 2回、年中組 8回、年長組 10回の指導を受けました。

③外国の先生による、英語教室の指導を学年ごとに、4月より受けました。 月1回~3回

④課外英語教室が4月より 月2回 年長園児が保育終了ご指導を受けました。

⑤遊ボール 年長組 5/15 10/25

9. 今後の課題

〈教育内容のさらなる充実〉

①遊びを通しての学び、遊びからの学びを大切にして、学びのある遊びを環境設定して子ども達に提供していきます。

②課外保育活動が充実してきています。さらに保育者にも啓発していきます。

〈未就園児教室の充実〉

①保育補助の先生に入っただき手厚い保育を行います。

②未就園児教室は年度当初から 0 歳児からもひよこ組に入れるようにし、0・1・2 歳児どの年齢のお子さんもあそびにきていただけるようにしました。

保育園部

幼稚園型認定こども園として、令和 2 年 4 月より保育園部が開園し、保育園を経験された先生方を中心に、年間指導計画、期ごとの指導計画、週案、日案を立て、指導の反省を行い、一人ひとりの様子を記録に残し子どもの育ちを確認し合いました。そして保育園ならではの、チーム保育に取り組み、保育者皆で協力し合い保育をおこない、6 年度も、コロナウイルス感染予防対策をとりながら、保育を進めました。

1. 保育園部の乳幼児期の指導のねらい

①健やかに伸び伸びと育つ

- ・健康な心と体を育て、安全な生活をつくりだす基礎を培う。
- ・身体感覚が育ち伸び伸び活動する。
- ・食事、睡眠、排泄等の生活リズムの感覚が芽生える。

②身近な人と気持ちが通じ合う

- ・身近な大人との信頼関係を育て人とかかわる力の基礎を培う。
- ・身近な人と親しみ、かかわりを深め、信頼感が芽生える。

③身近なものとかかわり 感情が育つ

- ・身近なものに、親しみや興味好奇心を持つ。
- ・身近な環境に、見る、触れる、探求する等自分から関わろうとする。

2. 保育園部での指導、活動の取り組み

(1) 保育者と一緒に生活をしながら、生活習慣を学んだり、保育者と一緒に遊んだり、様々な活動をしたり、好きな遊びをおこない、遊びを通しての学びを大切にします

①子どもの発達状態、興味等を考慮して「遊びの環境設定」を行い、保育者と一緒に遊んだり、自分の好きな遊びに取り組みました。

②保育者と一緒に、遊ぶ、食べる、睡眠をとる、おむつ交換や排泄を行い、生活習慣を身に付けました。

③四季折々の季節に応じた遊びを大切にする。

- ・ 4 月、5 月 …園庭での遊び、砂遊び、散歩で体力づくりや自然と関わりました。
- ・ 6 月、7 月、8 月…水遊び、プール遊び。
- ・ 9 月、10 月、11 月…園庭での遊び、散歩で体力づくりや自然と関わりました。
- ・ 12 月、1 月、2 月…室内遊び、雪遊び。
- ・ 3 月…園庭での遊び、砂遊び、散歩で体力づくりや自然と関わりました。

④四季の行事を知り、体験しました

- ・ 5 月…端午の節句、鯉のぼり
- ・ 7 月…七夕
- ・ 11 月…やきいも会
- ・ 12 月…クリスマス会、餅つきごっこ

- ・ 1月…お正月、獅子舞
- ・ 2月…節分
- ・ 3月…ひな祭り

⑤丈夫な体づくりや、自然に触れる四季折々の散歩

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| ・ 4月 … 17回 | ・ 9月 … 6回 | ・ 2月 … 3回 |
| ・ 5月 … 17回 | ・ 10月 … 16回 | ・ 3月 … 4回 |
| ・ 6月 … 6回 | ・ 11月 … 15回 | |
| ・ 7月 … 1回 | ・ 12月 … 13回 | |
| ・ 8月 … 0回 | ・ 1月 … 11回 | |

⑥散歩の場所

- ・ 幼稚園の裏の公園、9丁目公園、6丁目の公園、5丁目の公園、3丁目の公園、松原中央公園、松原南部公園、松原時計台、馬場家住宅

⑦毎月の製作活動

- ・ 毎月、保育者と一緒に製作活動を行いました。

(2) 健康及び環境衛生

- ①登園時の体温測定、健康観察、保育中の体調変化に応じて保護者連絡等により体調管理を行いました。
- ②保育室内外に危険な場所がないか、点検対応を行い怪我の防止に努めました。

(3) 食育の推進

- ①自園給食にともない給食を自分で食べようとする意欲を育て、手を使い、スプーンフォークを使用して食べるように努めました。
- ②好き嫌いなく、なんでも食べられるように努めました。一年間を通して、自分達の作った野菜をテーマに野菜を身近なものとして、好き嫌いなく食べるように保育を進めました。

(4) 防災、避難訓練

- ①毎月1回の避難訓練を行いました。
 - ・ 火災想定避難訓練
5月、6月、7月、11月、2月
 - ・ 地震想定避難訓練
8月、10月、12月、2月、3月
 - ・ 不審者想定避難訓練
10月

(5) 職員、保護者行事の参加

- ①職員玄関訪問 …4/19、22、23、24、25、26、30、5/1、2
- ②学級懇談会 …5/21
- ③保護者引き渡し訓練 …9/2 地震発生時の保護者引き渡し訓練を行いました。
- ④運動会 …9/28 0・1・2歳児運動会参加
- ⑤「おおきくなったね会」…1/24 進級前の子ども達の活動発表の様子を見て頂きました。

3. 6年度保育園部の状況

①6年度園児数

- ・ 0歳児 … 3名
- ・ 1歳児 … 15名

・ 2 歳児 … 23 名 計 31 名

②年間途中入園

・ 0 歳児 … 3 名

・ 1 歳児 … 0 名

・ 2 歳児 … 3 名

③年度途中退園者

・ 0 歳児 … 0 名

・ 1 歳児 … 0 名

・ 2 歳児 … 3 名

④年間保育日数 … 292 日

4. 子育て支援の取り組み

①土曜日希望保育日 年間48日開園 土曜保育参加者 143名

②新年度特別希望保育 3日間園 参加数 36名

③お盆特別希望保育 4日開園 参加者 12名

④運動会後特別希望保育 1日開園 参加者 18名

⑤年末特別希望保育 2日開園 参加者 40名

⑥卒園式特別希望保育 1日開園 参加者 9名

⑦年度末特別希望保育 7日開園 参加者 170名

5. その他の取り組み

① 園児の様子を、写真を通して保護者の方に知っていただくために、月1回の「あゆみ」のおたよりに写真を掲載してお知らせしました。

② 園児の昼寝をしている時間を利用して、職員の打ち合わせ、保育について話し合い、保育者同士の関わり合い、協力体制を深めました。

③ 保護者会を閉じた事で、保護者会費でまかなわれていた費用については、機会ある毎に松本短大よりいただいている旨を保護者に伝えました。

④ 創立50周年を迎え砂場横に水飲み場を設置するとともにこれからの松本短大幼稚園の未来の姿を考えて記念誌の作成をしました。市民タイムスに創立50周年を市民にお知らせするとともに本園のアピールを行いました。

6. 今後の課題

・「保育環境の中で一番大切なのは、保育者である」ということを心して、保育者皆で協力し合い、保育を進めていきます。

補助金を活用した施設・設備の整備状況

2.(1) 学校法人松本学園 事業の概要に記載しています。

3. 財務の概要

1) 収支の状況

過去5年間の収支の推移は〔別紙9〕のとおりである。

令和6年度における事業活動収入は、前年比49,306千円増の903,380千円となった。また、事業活動支出は前年比35,128千円増の950,650円となっている。事業活動収支差額は多少改善したが依然マイナスの状態であり、基本金組入前当年度収支差額も46,970千円のマイナスとなっている。これは、松本短期大学における収容定員未充足による収入減少が大きな要因となっていると考えられる。本法人の松本看護大学が完成年度を迎え、令和5年度より98,182千円の収入増となったが、松本短期大学においては、幼児保育学科が収容定員200名のところ所在籍者数が122名、介護福祉学科が収容定員80名のところ所在籍者が34名となり、両学科を合わせた収容定員充足率は55.7%と著しく低く、収入は前年比65,416千円の減少となり、本法人全体として事業活動収入の大幅な増加には至らなかった。

支出面に目を移すと事業活動支出は35,128千円増加した。要因は人件費と管理経費の増加が主である。管理経費の増加の要因は、大学及び短期大学におけるスクールバス及び食堂の業務委託費の上昇があげられ、10,428千円もの増加となった。

前述した基本金組入前当年度収支差額マイナス46,970千円の部門ごとの内訳は、法人が△13,684千円、大学が30,052千円、短期大学が△47,659千円、幼稚園が△15,679千円である。

現金預金は、令和5年度末と比較して59,600千円増の647,063千円となった。令和5年度は43,101千円の増加であったため、令和4年度末より2か年で約100,000千円の現金預金を増加とすることができた。令和6年度の部門ごとの内訳は、大学が約79,387千円、短期大学が△約15,600千円、幼稚園が5,242千円であり、短期大学における経営改善の必要性が現金預金の増減額からも見て取れる結果となった。法人全体での現金預金増加はもちろん、全ての部門において現金預金が毎年増加することを目指していく必要がある。

(2) 主な財務比率について

本学園の令和5年度、6年度の財務比率及び令和5年度の全国短期大学法人平均財務比率は、〔別紙10〕のとおりである。本学園は、令和3年度に大学法人となったが、他の大学法人と比較し大学部門は看護学部のみの小規模な単科大学であるため、短期大学法人の財務比率との比較を行った。

経営状況を示す事業活動収支差額比率（基本金組入前当年度収支差額を事業活動収入で除したもの）において、令和5年度の全国平均が△5.6%であったの対し、本学園の令和5年度事業活動収支差額比率は△7.2%で平均を大きく下回っていた。令和6年度は前述（1）のとおり多少改善はされたが、当比率が△5.2%とマイナスの域を脱するには遠い比率となった。

次に収入構成を示す一つである学生生徒等納付金比率は、令和5年度の全国平均が55.4%であるのに対し、本学園の令和6年度当比率は66.7%と高い割合となっている。やはり、本学園の収入の大半は学生生徒納付金によるものであるため学生確保に注力しなければならない。

支出の構成は適切であるかを示す比率のうち、令和6年度本学園の比率を鑑みると人件費比率を全国平均まで下げること及び教育研究経費比率を高めることを目指していく必要性を感じる。人件費比率の令和5年度全国平均が61.2%であるのに対し、本学園は72.6%と高すぎる比率となり、令和6年度は多少改善されたが依然70.6%と高い比率である。この人件費比率は、経営健全化の観点からは50%台が望ましいと言われている財務比率であるため、改善を推し進めることが持続的な教育を行っていくために必要不可欠であると捉え、取り組まなければならない課題である。教育研究経費比率は設置している学校種、学部・学科等により平均値にばらつきがみられるが、本学園では20%台後半が妥当であると考えられる。人件費比率が下がれば必然的に上昇する比率とも言えるが、令和6年度の本比率は24.1%と25%を割り込んでいるため、改善を要する事項と考

える。

(3) 主な施設・設備の整備状況

令和6年度は大きな施設・設備の整備は行わなかった。しかし、令和7年度以降は、松本短大幼稚園園舎等の屋根の塗装、同じく松本看護大学・松本短期大学1号館の屋根の塗装、また、松本看護大学・松本短期大学1号館及び2号館の照明器具のLED化など、数千万円単位の事業を検討しなければならない。単年度に実施するのではなく、財務状況等を適切に判断し検討時期を判断していく。

学校法人松本学園 役員・評議員名簿

令和7年3月31日現在

職名	氏名	選任条項		備考
理事長・評議員	銭坂久紀	5-2 / 6-1-1	21-3	
理事・評議員	木内義勝	6-1-1	21-1	
理事・評議員	竹岡雄一郎	6-1-2	21-1	
理事・評議員	三井経光	6-1-2	21-3	
理事・評議員	上條温	6-1-3	21-3	
理事・評議員	上條節子	6-1-3	21-3	
理事・評議員	柳澤秋孝	6-1-3	21-3	
監事	草深克臣	7-1	—	
監事	松川幸寛	7-1	—	
評議員	高山知佳	—	21-1	
評議員	玉井和宏	—	21-1	
評議員	渡邊涉	—	21-1	
評議員	手塚富喜子	—	21-2	
評議員	鳥羽寿々子	—	21-2	
評議員	柳沢佳澄	—	21-2	
評議員	窪田高明	—	21-3	
評議員	長岡利雄	—	21-3	

令和6年度 専任教職員名簿

別紙2

令和7年3月31日現在

No.	職名	氏名
【学校法人松本学園】		
1	理事長	銭坂 久紀
【松本看護大学】		
2	学長・教授	上條 節子
(看護学部)		
3	副学長・学部長・教授	小林 たつ子
4	教授	今井 栄子
5	教授	金子 潔子
6	教授	三輪 憲永
7	教授	百瀬 ちどり
8	教授	原岡 智子
9	教授	藤川 君江
10	教授	鮎川 昌代
11	教授	小林 由美
12	教授	安田 裕子
13	准教授	関永 信子
14	准教授	横山 芳子
15	准教授	山下 恵子
16	准教授	桑原 良子
17	講師	伊藤 寿満子
18	講師	近藤 恵子
19	講師	垣内 いづみ
20	講師	塩澤 綾乃
21	講師	奥原 香織
22	講師	高下 梓
23	講師	間瀬 壽美
24	助教	宮坂 光長
25	助教	倉科 恵里
26	助教	五十嵐 佳寿美
27	助教	牛山 陽介
28	助手	笠原 潮美
29	助手	荻久保 弘子
30	助手	大谷 健史

No.	職名	氏名
【松本短期大学】		
31	学長・教授	木内 義勝
(幼児保育学科)		
32	学科長・教授	山田 真治
33	教授	生田 恵津子
34	教授	永石 喜代子
35	教授	田中 秀明
36	教授	古屋 颯一
37	准教授	山藤 宏子
38	准教授	米窪 洋介
39	講師	高橋 典子
40	講師	黒田 和子
41	講師	田岡 紀美子
42	助教	齋藤 博紀
(介護福祉学科)		
43	学科長・教授	丸山 順子
44	教授	合津 千香
45	教授	福田 明
46	講師	齋藤 真木
47	講師	武井 浩子
【事務局】		
48	法人事務局長・事務長	竹岡 雄一郎
49	学生部長・入試広報室長	渡辺 涉
50	教務部係長	荒井 京子
51	主任	小松 昭和
52	主任	山本 勇
53	主任	藤森 永理子
54	主任	坂井 祐二
55	図書館司書	下澤 純奈
56	主事	花村 仁美
57	主事	上條 美穂子
58	主事	澤田 麻貴
59	主事	青柳 円
60	主事	互 加代
61	主事	安達 聖華
62	主事	齋藤 慎弥

令和6年度 松本看護大学・松本短期大学 非常勤講師名簿

令和7年3月31日現在

松本看護大学

No.	職名	氏名	
1	非常勤講師	荒 敏昭	
2	非常勤講師	伊藤 真之助	
3	非常勤講師	漆戸 敏夫	
4	非常勤講師	奥村 雅代	
5	非常勤講師	岳 鳳鳴	
6	非常勤講師	亀井 智泉	
7	非常勤講師	川上 由行	
8	非常勤講師	木下 守	
9	非常勤講師	行田 輝廣	
10	非常勤講師	後藤 泰一	
11	非常勤講師	澤野 紳二	
12	非常勤講師	田所 治	
13	非常勤講師	鄭 佳紅	
14	非常勤講師	内藤 美智子	
15	非常勤講師	中村 純子	
16	非常勤講師	水野 尚子	松本短期大学 兼務
17	非常勤講師	三村 仁志	
18	非常勤講師	宮坂 佐和子	
19	非常勤講師	李 丹丹	
20	非常勤講師	Patrick Murphrey Carrigan (パトリック マーフリー)	

松本短期大学

21	非常勤講師	飯田 しのぶ	
22	非常勤講師	伊東 和広	
23	非常勤講師	犬飼 己紀子	
24	非常勤講師	金枝 真佐尋	
25	非常勤講師	鎌倉 哲子	
26	非常勤講師	黒澤 優子	
27	非常勤講師	中倉 典子	
28	非常勤講師	野田 あゆ子	
29	非常勤講師	原田 春海	
30	非常勤講師	山口 真理	
31	非常勤講師	輪湖 直子	

松本看護大学・松本短期大学 令和6年度 進路状況

別紙4

令和7年5月1日現在

学校	学部・学科	卒業者数(名)	就 職			進 学	就職希望なし
			希望者数(名)	内定者数(名)	内定率	決定者数(名)	(家居、一時的な仕事、不明等)
松本看護大学	看護学部	72	69	69	100.0%	2	1
計		72	69	69	100.0%	2	1

松本短期大学	幼児保育	69	67	67	100.0%	0	2
	介護福祉	21	20	20	100.0%	0	1
計		90	87	87	100.0%	0	3

<松本看護大学 看護学部> 県内就職者52名、県外就職者17名、進学者2名

	合計(名)	就職者に占める割合	備考
県内病院	52	75.4%	
県外病院	17	24.6%	東京都8、愛知県3、千葉県2。その他4
進学	2	—	新潟大学教育学部養護教諭特別科、長野医療衛生専門学校音楽療法士学科
その他	1	—	
合計(名)	72	100.0%	

<松本短期大学 幼児保育学科 県内就職者62名、県外就職者5名

	合計(名)	就職者に占める割合	備考
公務員	33	48.5%	保育士29・保育教諭4
私立保育園	14	20.6%	
私立幼稚園	3	4.4%	
私立認定こども園	5	7.4%	
その他の社会福祉施設	5	7.4%	障がい児支援施設2、障がいもの支援施設2、その他1
その他企業等	7	10.3%	
就職準備	1	1.5%	
進学	0	—	
その他	1	—	
合計(名)	69	100.0%	

<松本短期大学 介護福祉学科 県内就職者20名、県外就職者0名

	合計(名)	就職者に占める割合	備考
特別養護老人ホーム	13	65.0%	
介護老人保健施設	3	15.0%	
デイサービス・デイケア	1	5.0%	
訪問介護	1	5.0%	
ケアハウス	1	5.0%	
その他企業等	1	5.0%	
進学	0	—	
その他	1	—	
合計(名)	21	100.0%	

松本看護大学 令和7年度入学試験 入試状況一覧表

令和7年4月2日現在

学部学科	試験区分	志願者数	合格者数	入学者数	備考
看護学部 看護学科 募集定員70名	総合型選抜Ⅰ期	14名	14名	14名	
	総合型選抜Ⅱ期	4名	3名	3名	
	指定校推薦選抜	36名	36名	36名	
	公募推薦選抜	3名	3名	3名	
	社会人選抜	0名	0名	0名	
	第一期一般選抜	30名	28名	15名	
	第二期一般選抜	1名	1名	1名	
	計	88名	85名	72名	102.9%

松本短期大学 令和7年度入学試験 入試状況一覧表

令和7年4月2日現在

学科	試験区分	志願者数	合格者数	入学者数	備考
幼児保育学科 募集定員80名	総合型選抜Ⅰ期	12名	12名	12名	
	総合型選抜Ⅱ期	1名	1名	1名	
	総合型選抜Ⅲ期	0名	0名	0名	
	指定校推薦選抜	38名	38名	38名	
	公募推薦選抜	2名	2名	2名	
	社会人選抜	0名	0名	0名	
	第一期一般選抜	4名	4名	4名	
	第二期一般選抜	0名	0名	0名	
	訓練生	2名	2名	2名	
	計	59名	59名	59名	73.8%
介護福祉学科 募集定員40名	総合型選抜Ⅰ期	1名	1名	1名	
	総合型選抜Ⅱ期	2名	2名	2名	
	総合型選抜Ⅲ期	1名	1名	1名	
	指定校推薦選抜	21名	21名	21名	
	公募推薦選抜	2名	2名	2名	
	社会人選抜	0名	0名	0名	
	第一期一般選抜	0名	0名	0名	
	第二期一般選抜	0名	0名	0名	
	訓練生	5名	5名	5名	
	計	32名	32名	32名	80.0%

前期

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
松本看護大学	松本短期大学	松本看護大学	松本短期大学	松本看護大学	松本短期大学	松本看護大学	松本短期大学	松本看護大学	松本短期大学	松本看護大学	松本短期大学
1月	辞令交付/拡大教授会 前期授業開始(大2・3・4)	1水		1土		1月	基礎看護学実習Ⅰ(大1)7/1~5	1木	夏期休暇(大1)8/1~9/23	1日	
2火	午前:松本看護大学 入学式(合同)	2木		2日		2火		2金		2月	公衆衛生看護学管理実習(大4) 9/2~13
3水	オリエンテーション(大1・2・3・4) 前期授業開始(大2・3・4)	3金	憲法記念日	3月	災害看護学実習(大4)6/3~6	3水		3土	PM:オープンキャンパス	3火	卒論発表会(大4)
4木	オリエンテーション(大1) [午後:健康診断(内科検診)](全員)	4土	みどりの日	4火		4木		4日		4水	オリエンテーション(大3)
5金	避難訓練 オリエンテーション(大1) [午後:テキスト販売]	5日	こどもの日	5水	就職相談会(介護)	5金		5月	小児看護学実習Ⅰ(大3)8/5~9	5木	宣誓式(大3)
6土		6月	振替休日	6木		6土	喀痰吸引研修②	6火		6金	
7日		7火		7金	午前:応急手当講習(幼2・Aクラス)	7日		7水		7土	オープンキャンパス(短大のみ)
8月	前期授業開始(大1)	8水		8土	学科会(幼・介)	8月	公衆衛生看護学実習Ⅱ(大4) 7/8~12	8木		8日	
9火		9木		9日		9火		9金		9月	領域別実習(大3)9/9~2/28
10水	午後:レントゲン撮影(大3・4)	10金	開学記念日(通常授業)	10月	公衆衛生看護学実習Ⅰ(大4) 6/10~21 多職種連携実習(大4)6/10~14	10水	学科会(幼・介)	10土		10火	
11木	午後:レントゲン撮影(大1・2)	11土		11火		11木		11日	山の日	11水	学科会(幼・介)
12金		12日		12水	学科会(幼・介)	12金		12月	振替休日	12木	実務者研修⑤
13土		13月	健康と運動Ⅱ:レクリエーション体験 (幼2)終日	13木	救急看護学実習(大4)5/13~6/7	13土		13火		13金	
14日		14火		14金	午前:応急手当講習(幼2・Bクラス)	14日		14水		14土	
15月		15水	教授会(拡大)	15土	オープンキャンパス	15月	海の日	15木		15日	
16火		16木		16日		16火	前期定期試験(大3)7/16~19	16金		16月	敬老の日
17水	教授会(拡大)	17金	教授会・拡大教授会	17月		17水	教授会(拡大)	17土		17火	後期オリエンテーション(幼1・2) 実務者研修⑥
18木		18土		18火	健康と運動Ⅱ:レクリエーション学修 (幼2)終日	18木	前期定期試験(大2)7/18~23	18日		18水	教授会(拡大)
19金		19日		19水	教授会(拡大)	19金		19月	老年看護学実習Ⅰ(大3)8/19~30 小児看護学実習Ⅰ(大3)8/19~23 公衆衛生看護学実習Ⅰ(大4) 8/19~30	19木	実務者研修⑦
20土		20月	災害看護学実習(大4)5/20~23	20木		20土	オープンキャンパス	20火	基礎看護学実習Ⅱ(大2) 8/20~9/2	20金	前期定期試験成績発表(幼1・2) 喀痰吸引研修(再試)
21日		21火		21金		21日		21水	教授会(拡大)	21土	教授会・拡大教授会 学科会(幼・介)
22月		22水	学科会(幼・介)	22土		22月	夏期休暇(大3)7/22~8/4 統合実習(大4)7/22~8/2	22木	前期定期試験(介2)7/22~7/26	22日	秋分の日
23火		23木		23日		23火		23金		23月	振替休日
24水	学科会(幼・介) フレッシュマン交流会(介)	24金	午後:大学自治会ドッジボール大会	24月	公衆衛生看護学管理実習(大4) 6/24~7/5 多職種連携実習(大4)6/24~28	24水	夏期休暇(大2)7/24~9/22	24土	学科会(幼・介)	24火	オリエンテーション(大1・2・4) 後期授業開始(大1・2・4)
25木		25土		25火		25木		25日		25水	学科会(幼・介)
26金		26日		26水	学科会(幼・介)	26金		26月		26木	保育実習Ⅱ・Ⅲ(幼2)8/26~9/6 介護総合実習(介2)8/26~9/25 喀痰吸引研修③B(演習)
27土		27月	公衆衛生看護学実習Ⅱ(大4) 5/27~31 多職種連携実習(大4)5/27~31	27木	教育実習(幼2)5/27~6/7	27土	夏季休業(介2)7/27~8/25 喀痰吸引研修④	27火		27金	喀痰吸引研修③B(演習)
28日		28火		28金		28日		28水		28土	
29月	昭和の日	29水		29土	実習指導者連絡会(介護)	29月	前期定期試験(大1)7/29~31	29木	前期定期試験(介1)7/29~8/2	29日	実務者研修③
30火		30木		30日		30火		30金	前期定期試験(幼1・2)7/30~8/2・8/5	30月	後期オリエンテーション(介2) 後期授業開始(介2)
31水		31金		31日		31水		31土		31日	喀痰吸引研修③C(演習)

令和6(2024)年度 年間行事予定表 <松本看護大学・松本短期大学>

別紙6-1

後期

Calendar table for the second semester (後期) from October to March. The table is organized by month (10月 to 3月) and day of the week. It lists various university events, exams, and holidays for both Matsumoto University of Nursing and Matsumoto University of Short-Term College. Key events include admission exams, graduation ceremonies, and special lectures.

令和6(2024)年度 年間行事予定表 <松本看護大学・松本短期大学>

別紙6-2

令和6年度 松本短大幼稚園 職員名簿

別紙7

令和7年3月31日現在

No.	職名	氏名	担当
1	園長	銭坂久紀	理事長・園長
2	嘱託職員 園長代行	高山知佳	園長代行・教育補助
3	副園長兼保育教諭	米窪あや子	0～2保育統括 2歳児
4	主任保育教諭 (保育園)	安坂美代子	満3歳児 未就園児ほか
5	主任保育教諭 (幼稚園)	森下恵美	満3歳児 未就園児ほか
6	副主任保育教諭 (幼稚園)	児玉麻美	年長：さくら 小学校接続担当
7	保育教諭 職務分野別リーダー	石山由香子	フリー
8	保育教諭 職務分野別リーダー	大日方愛夏	0・1歳児
9	保育教諭 職務分野別リーダー	古畑菜穂	2歳児
10	保育教諭 職務分野別リーダー	渡邊千裕	年中：ゆり
11	保育教諭 職務分野別リーダー	高橋美涼	年少：ひまわり
12	保育教諭 職務分野別リーダー	福嶋聖奈	年長：ふじ
13	保育教諭 職務分野別リーダー	古本まみ	2歳児
15	保育教諭 職務分野別リーダー	宮坂桃夏	0・1歳児
16	保育教諭 職務分野別リーダー	宮澤りお	年少：ばら
17	保育教諭 職務分野別リーダー	中村そら	2歳児
18	保育教諭	大久保愛加	0・1歳児
19	嘱託職員 保育士 職務分野別リーダー	高山小百合	0・1歳児
20	嘱託職員 保育教諭 職務分野別リーダー	南澤みゆき	0・1歳児
21	嘱託職員 保育教諭 職務分野別リーダー	樋口由佳代	フリー
22	嘱託職員 保育士 職務分野別リーダー	村上規子	2歳児
23	嘱託職員 事務長	玉井和宏	幼稚園事務全般
24	嘱託職員 事務兼バス運転手	太谷桂	スクールバス運転・営繕・保育補助他
25	非常勤講師 (保育教諭)	鳥羽壽々子	
26	非常勤講師 (幼稚園教諭)	斉藤裕見子	
27	非常勤講師 (保育士)	矢花康子	
28	非常勤講師	柳澤秋孝	
29	非常勤講師 (保育教諭)	二茅阿美	
30	非常勤講師 (保育教諭)	武沙依	
31	非常勤職員 (保育支援)	三村理恵子	

令和6年度 松本短大幼稚園年間計画表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	月 2, 3号特別保育	水 家庭訪問8(玄)	土	月 2号特別保育	木 預かり保育 東海北陸石川大会	日	火 英語教室	金 やきいも会	日	水	土	土	1
2	火 2, 3号特別保育	木 交通安全教室(午後) 家庭訪問9(玄)	日	火 英語教室 ひよこ組	金 預かり保育 東海北陸石川大会	月 防災訓練 保護者引き渡し	水 山雅触れ合い	土	月 発育測定4	木	日	日	2
3	水 入園式 2, 3号特別保育	金 憲法記念日	月 発育測定4	水 山雅触れ合い	土	火 英語教室 ひよこ組	木 ひよこ組	日 文化の日	火 ひよこ組	金	月 発育測定4 豆まき会	月	3
4	木 始業式 給食開始	土 みどりの日	火 英語教室 ひよこ組	木	日	水	金 入園説明会	月 振替休日	水	土 2,3号計画休業	火 英語教室 ひよこ組	火 英語教室	4
5	金	日 こどもの日	水	金 避難訓練	月 預かり保育	木 林業センター5	土	火 ひよこ組 英語教室	木 発育測定3	日	水 山雅触れ合い	水 運動遊び	5
6	土	月	木	土	火 預かり保育	金 誕生会	日	水 山雅触れ合い	金	月 始業式	木 発育測定5	木	6
7	日	火 英語教室 ひよこ組	金	日	水 預かり保育	土	月	木 内科検診	土	火	金 発育測定3	金 誕生会	7
8	月	水 山雅触れ合い	土	月	木 預かり保育	日	火 英語教室 ひよこ組	金 防災訓練 避難訓練	日	水	土	土	8
9	火	木	日	火 英語教室 ひよこ組	金 預かり保育	月	水	土	月	木 避難訓練	日	日	9
10	水	金	月	水	土	火 ひよこ組 英語教室	木	日	火 クリスマス会練習	金 卒園記念写真	月	月 お別れ会	10
11	木	土 春季公開講座	火 英語教室 ひよこ組	木 運動遊び	日 山の日	水 山雅触れ合い	金	月 個別懇談会1	水	土	火 建国記念の日	火	11
12	金	日 プール開き	水	金 誕生会	月 振替休日	木 運動遊び	土 現職教員研修	火 英語教室 個別懇談会2	木	日	水 ひな祭り会練習	水	12
13	土	月 歯科健診	木	土	火 お盆2号特別保育	金	日	水 個別懇談会3	金 クリスマス会	月 成人の日	木	木	13
14	日	火 英語教室 ひよこ組	金	日	水 お盆2号特別保育	土	月 スポーツの日	木 運動遊び 個別懇談会4	土	火 ひよこ組 英語教室	金 ひな祭り会	金	14
15	月	水 遊ボール5	土	月 海の日	木 お盆2号特別保育	日	火 英語教室	金 消防署見学 個別懇談会5	日	水	土	土	15
16	火 英語教室 ひよこ組	木 運動遊び(研)	日	火	金 お盆2号特別保育	月 敬老の日	水 歯科指導	土 秋季公開講座	月 誕生会	木 運動遊び(研)	日	日	16
17	水 資質向上講座	金 避難訓練	月	水	土	火 英語教室	木 運動遊び 発育測定5	日	火 英語教室	金 誕生会	月	月 終業式	17
18	木 運動遊び	土	火 英語教室	木 終業式	日	水	金 誕生会	月 個別懇談会6	水 山雅触れ合い	土	火 英語教室	火 卒園式(年少、年中休み) 保育園部特別保育	18
19	金 発育測定4 家庭訪問1(玄)	日	水	金 夏休み2号特別保育 年長特別保育	月 二学期準備 預かり保育	木	土	火 個別懇談会7	木 運動遊び 引き落とし日	日	水 引き落とし日	水 保育園部終業式 2号特別保育引き落とし日	19
20	土	月 引き落とし日	木 運動遊び 引き落とし日	土	火 始業式	金	日	水 引き落とし日 個別懇談会8	金 餅つき体験	月	木 運動遊び	木 春分の日	20
21	日	火 英語教室 ひよこ組	金 誕生会	日	水 山雅触れ合い	土	月 発育測定4	木	土	火 英語教室 ひよこ組 引き落とし日	金 誕生会	金 2号特別保育	21
22	月 家庭訪問2(玄) 発育測定5	水 尿検査	土 主任・学年主任研修	月 預かり保育 引き落とし日	木 運動遊び発育測定4 引き落とし日	日 秋分の日	火 英語教室 ひよこ組	金 誕生会	日	水 山雅触れ合い	土	土	22
23	火 英語教室ひよこ組 家庭訪問3(玄)	木	日	火 預かり保育	金 誕生会	月 振替休日	水 発育測定3 引き落とし日	土 勤労感謝の日	月 終業式	木	日 天皇誕生日	日	23
24	水 家庭訪問4(玄) 引き落とし日	金 誕生会	月	水 預かり保育	土	火 引き落とし日	木 歯科健診	日	火 預かり保育	金	月 振替休日	月 2号特別保育	24
25	木 家庭訪問5(玄)	土	火 英語教室 ひよこ組	木 預かり保育	日	水 運動会練習日	金 遊ボール5	月	水 預かり保育	土	火 英語教室	火 2号特別保育	25
26	金 誕生会 家庭訪問6(玄)	日	水 山雅触れ合い	金 預かり保育	月 発育測定3	木	土	火 英語教室 ひよこ組	木 2号特別保育	日	水	水 2号特別保育	26
27	土	月 保育参観時間差 短大実習①	木 内科健診	土	火 英語教室 発育測定5	金	日	水	金 2号特別保育	月	木	木 2号特別保育	27
28	日	火 英語教室	金	日	水 入園説明会	土 運動会	月	木	土	火	金	金 2号特別保育	28
29	月 昭和の日	水	土 土曜参観日	月 預かり保育	木 プール納め	日	火	金	日	水		土	29
30	火 家庭訪問7(玄)	木	日	火 預かり保育	金	月 2, 3号特別保育	水	土	月	木 ひよこ組3歳入園 説明会		日	30
31		金		水 預かり保育	土 現職教員研修		木		火	金		月 2号特別保育	31
備考													

過去5年間の収支の推移

(単位：千円) (千円未満四捨五入)

資金収支計算書	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R05, R06差異
学生生徒納付金収入	496,462	527,209	580,613	578,309	602,687	24,378
手数料収入	9,068	9,281	7,073	5,871	6,432	561
寄付金収入	809	500	426	0	100	100
補助金収入	522,621	224,842	248,744	244,653	250,160	5,507
付随事業収入	23,285	23,526	23,215	18,584	19,124	540
受取利息・配当金収入	281	153	167	204	703	499
雑収入	54,838	18,226	30,207	6,000	24,320	18,320
人件費支出	533,826	612,420	644,562	617,820	634,484	16,664
教育研究経費支出	110,135	134,708	133,251	121,700	125,648	3,948
管理経費支出	93,718	72,724	70,030	69,495	81,120	11,625
施設関係支出	587,014	32,248	524	0	528	528
設備関係支出	186,067	41,580	17,521	6,585	5,908	△ 677
現金預金 (注)	880,019	563,475	544,361	587,463	647,063	59,600
事業活動収支計算書	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R05, R06差異
事業活動収入計	1,107,437	803,969	891,044	854,374	903,680	49,306
事業活動支出計	877,335	933,970	956,394	915,522	950,650	35,128
人件費	572,839	616,344	646,160	619,422	637,665	18,243
教育研究経費	194,000	230,796	227,683	214,610	217,334	2,724
管理経費	107,367	85,889	81,851	80,828	91,256	10,428
基本金組入前収支差額	230,102	△ 130,001	△ 65,350	△ 61,149	△ 46,970	14,179
当年度収支差額	△ 512,856	△ 376,685	△ 72,130	△ 65,357	△ 47,685	17,672
翌年度繰越収支差額	△ 666,054	△ 1,042,739	△ 1,112,603	△ 1,176,976	△ 1,223,674	△ 46,698

注 現金預金には、施設設備引当特定資産を含む。

財務比率比較表

	No.	番号	比率名	算式(×100)	令和5年度		令和6年度
					本法人	全国平均 短大法人	本法人
貸 借 対 照 表	1	自己資金は充 実されている か	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	90.0%	89.4%	89.1%
			繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	-40.9%	-24.9%	-42.9%
			基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	97.1%	100.1%
	2	長期資金で固 定資産は賄わ れているか	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	87.8%	95.5%	85.5%
			固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	82.3%	89.5%	80.0%
	3	資産構成はど うなっている か	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	79.0%	85.4%	76.1%
			有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	77.1%	59.7%	74.4%
			特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	1.2%	20.2%	1.2%
			流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	21.0%	14.6%	23.9%
			減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	49.0%	58.1%	54.3%
	4	負債に備える 資産が蓄積さ れているか	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	11.6%	27.4%	13.0%
			運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.7	1.7	0.7
			流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	518.8%	320.5%	498.7%
			前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	571.0%	564.5%	527.1%
			退職給与引当特定資産保 有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	20.4%	55.5%	20.0%
	5	負債の割合は どうか	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	6.0%	6.0%	6.1%
			流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	4.1%	4.6%	4.8%
			総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	10.0%	10.6%	10.9%
			負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	11.1%	11.9%	12.2%
	6	運用資産の保有 状況はどうか	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	32.6%	64.9%	33.9%

	No.	番号	比率名	算式 (×100)	令和5年度		令和6年度
					本法人	全国平均 短大法人	本法人
事業 活 動 収 支 計 算 書	1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-7.2%	-5.6%	-5.2%
	2	収入構成はどうか	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	67.7%	55.4%	66.7%
			寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.1%	1.7%	0.0%
			経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.0%	1.5%	0.0%
			補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	28.6%	30.0%	27.7%
			経常補助金比率	$\frac{\text{経常費等補助金}}{\text{経常収入}}$	28.7%	31.0%	27.7%
	3	支出構成は適切であるか	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	72.6%	61.2%	70.6%
			教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.1%	31.5%	24.1%
			管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.5%	11.8%	10.1%
			借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.2%	0.0%
			基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	0.5%	12.0%	0.1%
			減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	11.4%	11.3%	10.8%
	4	収入と支出のバランスはとれているか	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	107.1%	110.4%	105.8%
			基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	107.7%	120.0%	105.3%
			経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-7.2%	-4.7%	-4.7%
			教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-7.2%	-8.2%	-4.8%
※	1	教育活動でキャッシュフローが生み出せているか	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	6.2%	2.7%	7.3%

※ 活動区分資金収支計算書